

平成28年度 神奈川県児童生徒健康・体力づくり推進委員会

市町村の取組概要

横浜市の取組

担当課

指導部 指導企画課

【小学校の取組】

外部との連携&ロング昼休みで体力向上！ 運動に親しみ、体力の向上を推進する取組

取組の概要

- 横浜市の児童及び小学校の実態について
 - ・運動することは好きな児童が多い。
 - ・放課後や休み時間の活動などへの運動遊びへの取組に二極化が見られる。
- 取組のねらいについて
 - ・「食」「体」「心」の3つの部会で実践する力の育成を目指す。
 - ・自分の体や体力向上の方法を知り、実際に実践できる「運動好きな子ども」を育む。
- 取組の内容について
 - ・単元計画を見直し、自ら学ぶ力や学びあう力を高める。
 - ・ロング昼休みを30分間とした。市の体育協会と連携しラジオ体操やリズムトレーニングなどに取り組んだ。
 - ・特別スポーツクラブ、行事等を推進し、タグラグビー、対抗試合、持久走などに取り組んだ。

取組推進・実施の流れ

2月	横浜市の子どもの体力状況・課題等を全校に発信し、各校に取組を呼びかけ
6月	健康・体力づくり推進委員会・体力向上研究校担当者を開催 今年度の方向性を提示
↓	各校「体育・健康プラン」に基づいた取組
11月	健康・体力づくり推進委員会 H28年度の体力の分析開始 体力向上研究校担当者を開催 各校の取組について中間報告会
12月	健康・体力づくり推進委員会 体格・体力の状況の特徴、課題等を検討
2月	健康・体力づくり推進協議会 開催 現状報告と研究校の取組紹介など

取組の成果と課題

- 成果
- 全校が各校の実態に応じた「体育・健康プラン」を設定し、取組を行っている。
 - 各校で「体力向上1校1実践運動」を実践し、それぞれの学校で設定した指標に基づいて振り返りを行い、実践がよりよくなるよう見直す学校が出てきた。
- 課題
- 投力、握力がなかなか向上しない。
 - 子どもの放課後の活動時間を増やすことが難しい。

【中学校の取組】

ケガ・スポーツ障害の予防と パフォーマンスの取組

取組の概要

- 横浜市の生徒及び中学校の実態について
 - ・部活動に熱心に取り組んでいる生徒が多いが、活動するための十分な環境は整っていない。
- 取組のねらいについて
 - ・スポーツ障害を学び予防の習慣化、解決力の向上を図る
 - ・体力に関する課題克服のための実践を行い、予防からパフォーマンス向上につなげる。
- 取組の内容について
 - ・栄養講習会を全学年で実施した。1年は朝食の大切さ、2年はスポーツ栄養、3年は受験に向けての食生活について「自分の体をデザインしよう」をめあてて実施した
 - ・ストレッチ講習会を1・2年生で実施し、ケガをしにくい体づくりとストレッチの応用を学んだ。
 - ・新体力テストの「投力種目」向上プログラムで、ストレッチ、トレーニング、キャッチボールに取り組んだ。

取組推進・実施の流れ

2月	横浜市の子どもの体力状況・課題等を全校に発信し、各校に取組を呼びかけ
6月	健康・体力づくり推進委員会・体力向上研究校担当者を開催 今年度の方向性を提示
↓	各校「体育・健康プラン」に基づいた取組
11月	健康・体力づくり推進委員会 H28年度の体力の分析開始 体力向上研究校担当者を開催 各校の取組について中間報告会
12月	健康・体力づくり推進委員会 体格・体力の状況の特徴、課題等を検討
2月	健康・体力づくり推進協議会 開催 現状報告と研究校の取組紹介など

取組の成果と課題

- 成果
- 全校が各校の実態に応じた「体育・健康プラン」を設定し、取組を行っている。
 - 各校で「体力向上1校1実践運動」を実践し、それぞれの学校で設定した指標に基づいて振り返りを行い、実践がよりよくなるよう見直す学校が出てきた。
- 課題
- 投力、握力がなかなか向上しない。
 - ほとんど運動しない生徒へのアプローチが難しい。
 - 前年比で運動する機会が増えている。

川崎市の取組

担当課	健康教育課
-----	-------

【 小学校の取組 】

体カアップにつながる 朝や休み時間の活用方法

取組の概要

- 川崎市の小学生の体力の実態について
 - ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査では、長座体前屈は大きく全国平均を上回っているものの、20mシャトルラン、ボール投げは低い。また、1週間の総運動時間が男女とも全国平均を下回っており、運動の日常化に向けた取組が必要である。
- 取組のねらいについて
 - ・モデル校を選定し、授業研究を通じて体力づくりと日常生活における体力向上を推進し、その成果を各学校に広げ、運動の日常化を全市に広げていくこととした。
- 取組の内容について
 - ・スポーツ指導者を活用した体育授業の充実と休み時間を活用した運動遊びの実践を行う。
 - ・ソーシャルスポーツラーニング（企業協力によるICTの活用）による1分間縄跳びの測定結果と、得られたデータのフィードバックにより、取組を検証する。

取組推進・実施の流れ

6月	新体力テスト 各校実施 体力づくり推進校指定・キラキラタイム開始
7月	フロンタール、フラッグフット普及
8月	
9月	小学校陸上記録会実施
10月	地区別運動会実施
11月	キラキラチャレンジ（縄跳び）実施
12月	全国体力運動能力調査の結果分析会
1月	新体力テスト指導者講習会（2月）

取組の成果と課題

- モデル校へ派遣したスポーツ指導者は、体育の授業及び休み時間等の運動遊びにおいて各学校の教員と協力体制を構築し、児童が運動に親しむ機会を増やすことができた。
- キラキラタイムは、ほぼ全校で実施し、友達と運動する機会が増え、運動の日常化が図られた。
- 年3回、1分間縄跳びの計測を行うことにより、年間を通じた縄跳びの結果の向上は図れたが、この運動により新体力テストの結果も向上しているかは、来年度の継続した取組から分析していく必要がある。

【 中学校の取組 】

体力の向上に向けて ～授業や昼休みの活動を通して～

取組の概要

- 川崎市の中学校の実態について
 - ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査では、本市の中学生の1週間の運動時間は、全国平均を上回っており、体を動かす機会が多いが、運動能力では持久走を除き、全国平均を下回っているのが現状である。
- 取組のねらいについて
 - ・新体力テストを全校で実施し、教育活動全体や実生活で生かせる、体力向上の取り組み方の工夫・改善を行う。
 - ・授業実践をはじめ、休み時間の活用、委員会活動による生徒の自主的な取り組み実践、夏季休業中の体づくりの取組等、各校の実情に応じて取り組む。
- 取組の内容について
 - ・新体力テストで劣っている体力を補う目的で、種目の特性に応じた補強運動を毎時間継続的に行う。
 - ・夏季休業中等、簡単に取り組める運動メニューを計画し、自主的に運動に取り組めるようにする。

取組推進・実施の流れ

6月	新体力テスト各校実施 体育学習での実践
7月	
8月	夏季休業中の体力向上に向けた取組
9月	市駅伝大会に向けた、合同部活動での参加
10月	
11月	
12月	全国体力運動能力調査の結果分析会
1月	

取組の成果と課題

- 本市の体力の現状について各校で共通理解のもと、その改善に向けて日常の運動環境を整える取組が推進できた。各校では、委員会活動や学校行事に体力づくりの取組をうまく組み込み、生徒が自主的に運動できる工夫が行えた。
- 新体力テストの結果を活用し、体力の要素をバランスよく網羅できる補助運動等を組み込んでいくため、それぞれの内容の整理が必要である。

相模原市の取組

担当課

相模原市教育委員会
学校教育課

【 小学校の取組 】

みんなで体力向上をめざして ～新体力テストに向けて～

取組の概要

○児童及び小学校の実態について

- ・体力合計点は、男女とも平成27年度より上昇したものの、男子は、反復横とび、立ち幅とび、女子は、上体起こし、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ボール投げが課題である。
- ・総合評価のAとDの割合を比べると、女子はAが増加、Dが減少し、女子の体力は向上傾向が見られるが、男女ともにDの割合は依然として高い。
- ・新体力テストの全学年実施率は昨年より上昇している。

○取組のねらいについて

児童が体力の向上を実感できるように、体力テストの結果から課題と考えられる体力について、その後の授業等で改善できる取組を行う。

○取組の内容について

- ・新体力テストの体力要素と単元で関連する体力の向上について、始めの運動などに取り入れ、単元を通して体力の向上を感じられるようにする。
- ・各校の委員会活動等、体育の授業以外での体力向上の取組を検討していく。

取組推進・実施の流れ

6月	推進委員から市全体への呼びかけ
7月	新体力テスト実施
8月	把握分析
9月	体育的行事実行委員会にて市内のデータ集約
10月	市内データの分析
11月	市内データの分析
1月	健康教育担当者会で市全体の重点確認
2月	体育的行事実行委員会にて取組報告、課題確認

取組の成果と課題

【成果】

新体力テストの全学年での実施率が上がり、市全体の体力向上に対する意識も向上している。体育の授業のみならず体育委員会の取組など、学校全体の取組へと発展している学校もある。

【課題】

学校全体で児童の体力の課題を共有することや、体力向上の目標を設定することを浸透させるために、引き続き健康教育担当者会等で推進していく。

【 中学校の取組 】

柔軟性向上プロジェクト

取組の概要

○生徒及び中学校の実態について

- ・体力合計点は、男女とも平成27年度より上昇したものの、男子では、反復横とび、女子では、反復横とび、上体起こし、立ち幅跳びが課題である。
- ・総合評価のAとDの割合を比べると、男女ともAが増加、Dが減少し、体力は向上傾向にあるが、小学校と同様にDの割合が高い。
- ・女子は肥満傾向児より痩身傾向児の割合が高い。

○取組のねらいについて

新体力テストの中で、各校で課題と考える体力要素について体育の授業の中のウォーミングアップ等で関連する運動を行い、継続した取り組みの中で体力が向上することを生徒に実感できるようにする。

○取組の内容について

- ・授業の始めの運動に各校の課題に沿った運動を取り入れる
- ・体力向上を啓発する掲示物の作成

取組推進・実施の流れ

6月	保健体育主任会で各校にねらいの呼びかけ
7月	各校の体力テストの結果分析
8月	各校の課題体力要素と改善に向けて
9月	改善に向けて授業で実践
10月	改善に向けて授業で実践
11月	課題体力要素の変化測定
12月	各校の取組報告
1月	健康教育担当者会で市全体の重点確認

取組の成果と課題

【成果】

それぞれの学校で自校の体力要素の課題に沿った運動を取り入れ、継続的な体力向上の取組が授業の中で行われることにより、生徒の体力に対する意識にも変化が見られる。

【課題】

体力調査の結果を学校全体で共有し、保健体育の授業の中だけで体力向上を推進するのではなく、委員会等、様々な角度から健康の保持増進や体力向上に取り組む必要がある。

横須賀市の取組

担当課	横須賀市教育委員会事務局 学校教育部スポーツ課
-----	----------------------------

【 小学校の取組 】

体力向上に向けた取組内容の見直しと効果的な実践

取組の概要

本市では、子どもの実態をより正しく把握するため、平成27年度から市立小学校の3年生以上の全児童を対象に体力・運動能力、運動習慣等調査を実施している。

市として、今後の子どもの健康・体力向上推進における施策等の参考とすることを目的としているが、各学校においても、調査結果から自校の状況を把握分析し、具体的な取り組みを行った上でその成果と課題を検証し、さらに改善を図るというR-PDCAサイクルを確立し、継続的かつ計画的に取り組んでもらいたいと考えている。

そこで、市研究会と連携し、各校の取組について情報共有するとともに、今年度の体力等の調査結果をもとに各校の実践をより良いものにする。

取組推進・実施の流れ

6月	※4月、前年度の各校の取組をまとめた資料配布（市研究会による）
7月	調査の実施（4月～7月） 体力等調査票の提出
8月	学校別集計結果資料返却
9月	集計結果の把握分析、これまでの取組の検証
10月	体力向上に向けた各校の取組の見直し（調査結果及び研究会作成資料の活用）
11月	各校の取組実践
12月	↓
1月	市体力づくり実践研究発表大会にて共有

取組の成果と課題

【成果】

調査では、1日2時間以上運動している本市児童の割合は、全国平均値を上まわっている。これまでも、各校においては児童委員会の取組や市主催の体育的行事を活用するなど、様々な工夫や仕掛けをしてきたことで、児童の運動習慣の定着に一定の効果をあげていると思われる。

【課題】

体力等の調査結果の有意義な活用方法や、より効果の高い体力向上の取り組み方などについて情報提供し、支援を進めることが必要である。

【 中学校の取組 】

保健体育科授業における運動量の確保

取組の概要

これまでの体力等調査の結果分析から、体力合計得点と、50m走・立ち幅跳び・20mシャトルランの測定値の間に相関関係が見られることがわかった。また、新体力テスト総合判定がE・Dの生徒の割合が、全国平均値を上回っていることも課題として指摘された。

そこで、保健体育科の授業において、全身運動（特に走る動作）を重視することと、体力下位層の生徒へ対するアプローチを工夫することについて、各校で取組を進めることとした。また、市研究会と連携する中で、いくつかの学校には昨年度から先行して取り組んでもらった。今年度の調査結果から、研究部所属校の実践が結果にどう表れるのかを検証し、効果的な実践例を市内に発信することを目指す。

取組推進・実施の流れ

6月	※4月、市研究会において取組概要を説明
7月	市独自の体力等調査の実施及び結果の活用については、小学校と同様の流れで実施
8月	
9月	
10月	市研究会において、先行実施校の結果の検証
11月	↓
12月	
1月	市体力づくり実践研究発表大会にて中間報告

取組の成果と課題

【成果】

これまでの様々な取組は、その効果が十分検証されないまま新たな取組が加わり、それぞれを十分深めることができていなかったが、市独自調査を行うようになったことで、その結果の活用の幅が広がり、指標を明確にして検証し、改善するというサイクルが確立されつつある。

【課題】

学校全体で体力向上に取り組むために、保健体育科教員以外の教職員の意識を向上させることが必要である。

鎌倉市の取組

担当課

鎌倉市教育委員会
教育指導課

【 小学校の取組 】

団結して、がんばろう

～休み時間を活用して運動に親しむ～

取組の概要

- 鎌倉市学校教育研究会小学校体育部会では「生きる力をはぐくむ体育学習」を研究主題として、授業研究を中心に研究を進めた。
- 取組のねらいについて
 - ・豊かな人間関係とめあてを持った体育学習の確立
 - ・運動の場と機会の確保
- 取組の内容について
 - ・授業研究を通して、豊かな人間関係づくりや、一人ひとりが判断して行動できる体育学習を考える。
 - ・各校に休み時間や朝の時間に運動の機会を増やせるよう促し、各校で取り組む。

取組推進・実施の流れ

6月	取組の投げかけ	各校での取組
7月	研究授業	
8月		
9月		
10月	鎌倉市陸上記録大会	
11月		
12月	研究授業	
1月		

取組の成果と課題

- 成果
 - ・児童が生き生きと運動に向かう姿が見られ、目標に向かって意欲的に取り組むことができたと考える。
 - ・休み時間や朝の時間にも運動に親しむことができた。
- 課題
 - ・児童同士の関わりの作り方
 - ・身につけさせたい力を意識した競技の選択

【 中学校の取組 】

運動機会を増やし、運動に親しむ

取組の概要

- 鎌倉市学校教育研究会中学校保健体育部会では「生徒一人ひとりが生涯を通して意欲的に運動に親しむことができる資質や能力を培う学習指導について～取り組む意欲を高める導入の工夫～」を研究主題として研究を進めた。
- 取組のねらいについて
 - ・基礎体力の向上を目指す。
 - ・運動に取り組む意欲を高める。
- 取組の内容について
 - ・導入の工夫
 - ・種目ごとの補強運動
 - ・準備運動とトレーニング
 - ・昼休みの体育館開放と用具の貸し出し

取組推進・実施の流れ

6月	取組の投げかけ	各校での取組
7月		
8月	授業研究検討	
9月	領域ごとに実践	
10月		
11月		
12月		
1月	まとめ、報告	

取組の成果と課題

- 成果
 - ・種目に応じた補強運動を行うことで、身体の動かし方や力のかけ方を自然と身につけているように感じる。
 - ・昼休みの活発な活動を通して、自ら進んで身体を動かそうとする生徒が増えた。
- 課題
 - ・運動に対しての取り組みの二極化。
 - ・部活動と連携した基礎体力の向上を目指したプログラム

藤沢市の取組

担当課

藤沢市教育委員会
教育指導課

【 小学校の取組 】

子どもの体力向上を目指すための鬼遊び

取組の概要

- 藤沢市の小学5年生は、体力テストの結果において、男女とも握力、50m走以外の6種目で全国・県の平均を下回っている。しかし、「運動が好き」と答えた児童は全国・県の平均を上回っている状況にあり、体力テストの結果に反映されていない。
- 子どもたちの体力向上には、学校での積極的な取り組みが不可欠であり、授業時間以外で、より子どもたちの体力向上を図る必要がある
- 藤沢市小学校教育研究会体育部会を中心に、体育の授業において、楽しく、取り組みやすい「鬼遊び」を取り入れ、外遊びにつなげるようにした。また、「鬼遊び」の魅力と指導方法を知るための実技研修を企画するとともに、様々な種類の鬼遊びを知るための「鬼遊び集」を作り配付することにした。

取組推進・実施の流れ

6月	体力向上についての方策を検討
7月	藤小研体育部会で「鬼遊び」の資料を収集
8月	資料を全校に周知する
9月	各校で実施する
10月	藤小研体育部会で「鬼遊び」実技研修実施
11月	各校で実践する
12月	
1月	取組の結果をまとめる

取組の成果と課題

特に低学年の授業で毎時間、鬼遊びの時間を取り入れた。それにより児童が授業の見通しを持ち活動したことや、同じ鬼遊びを行っても以前と比べて運動量が増えたことが見て取れた。また、授業中に行った様々な鬼遊びを休み時間に子どもたちだけで行っている様子を見る機会が増えた。

「鬼遊び集」の内容については、配付はしたものの、実際に実技研修で扱えていないものも多いので来年も継続して研修の場をつくっていく。特に、各運動領域の動きに合った鬼遊びについて研究し、取り入れていけるようにしたい。

【 中学校の取組 】

上体起こし、全国・県の平均を下回る

取組の概要

- 藤沢市の中学2年生は、体力テストの結果において、女子の上体起こしが全国・県の平均を下回っている。全国・県の平均を上回っている種目は男子が7種目、女子が3種目であり、小学生時に比べ向上している。
- 全国体力・運動能力調査（2年生）における本市生徒が劣っている種目（運動能力）の向上を図るとともに、生徒の体力・運動能力に関する興味・関心を高める。
- 藤中研保健体育部会を中心に保健体育の授業で補強運動として20秒間バーピージャンプを行う。市内19校の中学3年生1クラスを対象に9月から12月中旬に上記運動を毎時間行い、上体起こしの計測・記録したデータを12校から回収集計した。

取組推進・実施の流れ

6月	市内中学校へ周知 ① 平成27年度の体力テストの結果を把握
7月	② 平成28年度の体力テスト結果の把握
8月	
9月	体育の授業で実施 結果の把握
10月	
11月	
12月	体育の授業で実施 結果の把握
1月	取組の結果をまとめる

取組の成果と課題

全国体力・運動能力調査の結果として課題の残る種目「上体起こし」を意識した実践に2年間取り組んできた。本年度は昨年の反省をもとに、ペースを合わせて一回一回正確に実践を行った。授業に集中した時間が生まれ、適度な緊張感もあって雰囲気よかった。一定の成果も出ている。

今後はこれらに加えて、マット運動であれば「ゆりかご」、跳び箱運動であれば「馬とび」のように、課題である「力強さ」と「持続する能力」につながる運動を意図的に取り入れるとともに、負荷を考えて取り組ませるなど、教師自身が日常的に意識していくことが必要であると感ずる。

茅ヶ崎市の取組

担当課

茅ヶ崎市教育委員会
学校教育指導課

【 小学校の取組 】

「青空タイム」で持久力アップ ～運動好きな児童 の育成を目指して～

取組の概要

- 児童及び小学校の実態について
 - *全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果、「20mシャトルラン」の数値が全国平均を下回る。
 - *同調査の結果、「運動が好き」+「やや好き」と答えた児童の割合は、全国平均を上回るが、外遊びする児童としない児童が二極化している。
- 各小学校で行われている健康・体力づくりの取組の実態
 - *地区教育研究会体育部会では、「運動好きな子を育てる体育指導～かかわりを大切に～」をテーマに、各学校で授業実践を推進している。
 - *外遊びを推進するために週に一度、長めの休み時間等を設けるとともに、児童会主催の球技大会等を企画して児童が運動に親しみやすい環境を作っている学校が多い。
- 取組のねらいについて
 - *外遊びへの興味を喚起し、持久力の向上を図る。
 - *仲間とかかわり合いながら体を動かす活動を通して、運動好きな子を育てる。
- 取組の内容について
 - *児童会活動を中心とした体力向上への取組
 - *学校全体計画として位置付けた体力向上への取組（ロング昼休み、たてわり遊び活動、運動用具の充実等）

取組推進・実施の流れ

4月	本年度テーマの確認 ◆各学校での授業実践
5月	
6月	授業研究会：陸上運動
7月	
8月	
9月	
10月	授業研究会：マット運動
11月	
12月	授業研究会：マット運動
1月	研究のまとめ

取組の成果と課題

- 体育行事等において、多くの児童が進んで運動に取り組もうとする姿が見られるようになった。
- 取組全般において、友だちと楽しみながら運動する姿が見られるようになり、児童の運動機会の拡充につながった。
- 行事だけでなく、外部との連携、ICTの活用、学び合い等を通して、日常の体育の授業の充実を図ることが大切である。

【 中学校の取組 】

生徒が自ら運動を楽しむ ～健康な体づくりと 体力の向上を目指して～

取組の概要

- 生徒及び中学校の実態について
 - *全国体力・運動能力、運動習慣等調査の全国平均を下回る生徒が1/3程度いる。
 - *運動部やクラブチームに所属している生徒の体力は全国平均を上回っているが、文化部や部活動に未加入の生徒の1日あたりの運動時間は非常に少ない。
- 各中学校で行われている健康・体力づくりの取組の実態
 - *地区教育研究会保健体育部会では、「意欲的に取り組む剣道授業の工夫」をテーマに、各校で授業実践を推進している。
 - *外遊びを推進するために、昼休みにボール等、用具の貸し出しを行っている学校が多い。
- 取組のねらいについて
 - *自分の健康や体力に興味を持てるようにし、毎日の運動習慣を定着させる。
 - *運動習慣の確立により、新体力テストの記録向上を目指す。
- 取組の内容について
 - *保健体育科の授業における取組
 - *休業中の新体力テストに向けての取組
 - *学校全体、体育祭での取組

取組推進・実施の流れ

4月	
5月	本年度テーマの確認 ◆各学校での授業実践
6月	
7月	
8月	各学校での取組の情報交換 剣道授業についての課題の洗い出し
9月	授業研究会：武道（剣道）
10月	授業研究会：武道（剣道）
11月	
12月	研究のまとめ
1月	県発表会準備

取組の成果と課題

- 長期休業中の「体力アッププログラム」の取組により、生徒が、基本的な生活習慣を見直すことができるようになった。
- 体育祭の運営を、生徒主体で行うことにより、運動全般に対する生徒のモチベーションを高めることができた。
- 健康や運動に興味を持つ生徒が増えたが、運動が苦手な生徒に対する継続的な補助や助言が必要である。

逗子市の取組

担当課

逗子市教育委員会
学校教育課

【 小学校の取組 】

投能力の高まりを目指そう！

～体力テストでのソフトボール投げの記録向上に向けて～

取組の概要

- 逗子市の児童及び小学校の実態について
 - ・市内小学校では新体力テストを全校で実施し、状況の把握に努めている。
 - ・「長座体前屈」や「50m走」では全国よりも高い値だが、「20mシャトルラン」や「立ち幅跳び」等では全国値を下回る。中でも、「ソフトボール投げ」は全国値を大きく下回っている状況がある。
 - ・学校による特色はあるものの、児童会活動を中心に休み時間などのスポーツ集会も多く実施され、運動意欲の向上に努めている。
- 取組のねらいについて
 - ・新体力テストの「ソフトボール投げ」の記録が低いことから、投運動の技能の高まりを期待したい。
 - ・子どもたちが投運動の技能に自信を持つことによって、それを活用する運動・遊びへ意欲的に取り組み、全体として体力向上につなげることができると考えた。
 - ・普段運動に親しむことの少ない児童も、ボール運動を楽しむための基礎を身につけさせたい。
- 取組の内容について
 - ・投運動の高まりが期待できる補助運動を集め、3年生から6年生までの体育の授業のウォーミングアップに取り入れ、一定期間、継続的に実践した。

取組推進・実施の流れ

6月	新体力テストの実施
7月	投運動につながる補助運動について情報収集
8月	↓
9月	投運動を中心とした補助運動の実施
10月	↓
11月	↓
12月	新体力テスト「ソフトボール投げ」の再計測
1月	結果のまとめ・考察

取組の成果と課題

- 本年度は推進員の所属校中心に実施した。この結果をもとに、今後市内各校へ実践を広げていく。
- 投運動という1つの技能に絞って、体育の授業を中心に繰り返し補助運動を実施することで、その運動への慣れ、全体的な技能の向上が見られた。
- 投運動の向上により、多くのボール運動への意欲や興味の高まりを期待したが、日常の運動習慣への影響までは見られなかった。技術的な高まりを、日常の運動習慣作りへとつなげていく継続的な取り組みが必要となってくる。

【 中学校の取組 】

正しいフォームを身につけて、 ハンドボール投げの飛距離を伸ばそう！

取組の概要

- 逗子市の生徒及び中学校の実態について
 - ・新体力テストの結果では「50m走」や「持久走」では全国よりも高い値だが、「反復横とび」や「立ち幅跳び」等では全国値を下回る。中でも、「ハンドボール投げ」は全国の値を大きく下回っている。
 - ・運動習慣の二極化の状況は顕著で、部活動等で日常的に運動を行う生徒と、そうでない生徒では体力についても開きがある。
 - ・総合得点の高い生徒でも、投げることについては不得意な生徒が多い。
- 取組のねらいについて
 - ・新体力テストの「ハンドボール投げ」の記録が低いことから、投運動への理解や技能の高まりを期待したい。
 - ・生徒が投運動の技能に自信を持つことで、それを活用するボール運動へ意欲的に取り組み、全体として体力向上につなげることができると考えた。
 - ・普段運動に親しむことの少ない生徒も、ボール運へ意欲的に取り組むための基礎を身につけさせたい。
- 取組の内容について
 - ・投運動について投球フォームの形を意識させる運動を授業内に位置付け、グループ学習での課題解決型の授業の中で、その技能向上を図った。

取組推進・実施の流れ

6月	新体力テストの実施（4・5月）
7月	投運動の技能向上につながるプログラムについて情報収集
8月	
9月	
10月	
11月	投運動を中心の「体づくり運動」の単元学習 新体力テスト「ソフトボール投げ」の再計測
12月	
1月	結果のまとめ・考察

取組の成果と課題

- 本年度は推進員の所属校中心に実施した。この結果をもとに、市内研究会と協力し今後市内各校へ実践を広げていく。
- 投運動という1つの運動技能に絞って、投げ方についての知識を高め、グループでフォームについてアドバイスをやり取りすることで、技能についての理解が深まった。また、投技能の学習場面で、集団での学び合いが効果的であることもわかった。
- 投運動に対する苦手意識の克服をねらったが、記録が伸びなかった生徒もいた。これらの生徒は正しいフォームを理解することとまとまると考えられる。技能習得へ向けには、今回理解したことをベースに、反復練習や活用場面を取り入れていく必要がある。

三浦市の取組

楽しく体を動かそう！！体力向上プロジェクト！！

担当課

三浦市教育委員会
学校教育課

【 小学校の取組 】

みんなで外遊び

～外遊びで体力向上～

取組の概要

○三浦市の児童及び小学校の実態

- *運動への積極的な取組に課題がある。
- *健康的な生活習慣の形成に課題がある。
 - ・体力テストの結果等から、体育の授業以外の運動への取組が、二極化傾向にあることがわかる。

○取組のねらい

*児童会活動や委員会活動等の取組による運動時間増加に向けた取組

- ・児童会活動や委員会活動の企画で楽しく体を動かす機会を取り入れ、休み時間、外遊びをする意欲を育てる。
- ・体を思い切り動かす、思い切り遊ぶ時間を確保することにより、運動することの心地よさを体感し、外遊びの習慣化によって体力向上をはかると期待している。

○取組の内容

- ・教職員が積極的に声かけを行い、教師も外に出て一緒に遊ぶ等の取組を行っている。
- ・各校で行っている児童会活動や委員会活動等の活動で、運動の楽しさや達成感を味わい体力を向上できる取組を行っている。

取組推進・実施の流れ

6月	三浦市学校教育研究会体育部会（小学校）での推進委員からの働きかけ
7月	児童会活動や委員会活動等の取組による運動時間増加に向けた取組の実施
8月	
9月	
10月	
11月	三浦市学校教育研究会体育部会（小学校）での交流・報告
12月	
1月	

取組の成果と課題

○取組の成果と課題

*成果

異学年交流や委員会活動等の取組による体を動かすイベントは、各校多少の違いはあるが全小学校で実施することができた。

*課題

児童の運動に対する興味・関心の高まりを、運動の日常化につなげていくかが課題である。

【 中学校の取組 】

～体力向上プロジェクト～

取組の概要

○三浦市の生徒及び中学校の実態

- *運動への積極的な取組に課題がある。
- *健康的な生活習慣の形成に課題がある。
 - ・体力テストの結果等から、体育の授業以外の運動へ取組が、二極化傾向にあることがわかる。

○取組のねらい

*体力向上プロジェクト

- ・自分自身の体力を知り、補強運動により、長所をのばし、足りていないところを補う。
- ・体育の授業改善や環境の整備により、体力の向上と運動への意欲付けをねらいとする。

○取組の内容

- ・体育の授業では、始まりの5分間に補強運動や柔軟運動を毎時間継続的にこなす。
- ・全学年で体力テストの実施。
- ・校内マラソン大会、持久走等の取組を行っている。

取組推進・実施の流れ

6月	三浦市学校教育研究会体育部会（中学校）での推進委員からの働きかけ
7月	体力向上プロジェクト
8月	
9月	
10月	
11月	三浦市学校教育研究会体育部会（中学校）での交流・報告
12月	
1月	

取組の成果と課題

○取組の成果と課題

*成果

体育の授業の改善をめざし、体力向上の取組を継続して行っていることが、生徒の運動に親しもうとする意欲につながっている。

*課題

取組が（体力テストの数値等）目に見える形で反映されないため、具体的な成果としてとらえることが難しい。

葉山町の取組

担当課

葉山町教育委員会
学校教育課

【 小学校の取組 】

全校ダンスでまつりを盛り上げよう！

取組の概要

○児童及び小学校の実態について

今年度の全国体力・運動能力調査においては、男女共に良好な結果が見られた。特に男子については2項目を除く全ての項目で全国や県の平均値を上回っている。運動に対する関心も高く、体育の授業を楽しんで行っている様子が伺える。

○取組みのねらいについて

運動が苦手な児童が体を動かすことの楽しみを知ること、日常的に体を動かすことを習慣とすることを目的とした。特に児童が休み時間にも進んで運動することをねらいとした。

○取組みの内容について

授業の中の導入である準備運動を工夫することや、行事のセレモニーに全校ダンスを取り入れるなどの取組みを行った。休み時間にも楽しんで踊ることができるような内容の振り付けを児童と共に考え、学校ダンスを校内に広めた。

取組推進・実施の流れ

6月	運動会・葉教研（小・中連携）＊働きかけ
7月	ウォーミングアップ考案（準備運動・全校ダンス）
8月	↓
9月	ウォーミングアップや全校ダンスの実践
10月	葉教研（小・中連携）
11月	授業研究会での取組み
12月	
1月	葉教研（小・中連携） ＊交流・報告 ↓

取組の成果と課題

今年度は、町内4校の小学校のうち、2校が校内研究で体育の学習についての研究を行った。また、町の学びづくり事業を通して、中学校の体育の教員が小学校の授業を参観するなど、小・中の連携を積極的に推進してきた。体育の授業の中で話し合い活動を多く取り入れるなど、授業改善の工夫について共有することができた。体力づくり推進委員が考案した準備運動やダンスについては、どの学年においても多くの児童が楽しめる内容で、効果を上げている。今後は中学校との系統的な内容を工夫しながら、さらに広めて継続していきたい。

【 中学校の取組 】

楽しくウォーミングアップを！

取組の概要

○生徒及び中学校の実態について

運動に対して意欲的に取組む生徒がいる一方で、女子を中心に体を動かすことへの関心が低い生徒がやや目だっている。二極化については例年の傾向であるが、今年度は生活面においても睡眠時間の減少等の課題が見られた。

○取組みのねらいについて

生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるために、運動量を確保し、特にウォーミングアップでの準備運動を定着させることを目的とした。

○取組みの内容について

校歌などを使った学校独自の体操を準備運動に取り入れ、行事等でも活用しながら、生徒が楽しく運動できる機会を年間を通して持つようにした。短時間にできる腹筋や背筋を使った運動、ダッシュやジャンプなどを組み合わせた運動効果の高い準備運動を積極的に取入れた。

取組推進・実施の流れ

6月	体育祭・葉教研（小・中連携）＊働きかけ 校歌を使った準備体操の実践（学校体操）
7月	↓
8月	逗葉中教研（研修）
9月	持久走での取組み
10月	授業研究会での取組み
11月	マラソン大会での取組み
12月	
1月	葉教研 ＊交流・報告 ↓

取組の成果と課題

町内の中学校は2校しかないが、規模の違いなどにより、統一した取組みを実践するのは難しい。準備運動については、どの学習内容においても取入れやすいことから、今後も運動能力向上をねらった効果的な取組みを期待したい。今年度実施の学校においては、苦手意識のある生徒が楽しんで取組むことができ、短時間であってもストレッチ的な要素以外の様々な効果が見られた点で成果があった。日々の活動の中で継続的に取組むことにより、生涯にわたって運動に親しむ資質を育成することが可能であると思われる。

寒川町の取組～自ら体を動かす機会の設定～

担当課

寒川町教育委員会
学校教育課

【 小学校の取組 】

Enjoyしながら体を動かそう！

～ムーブでブームをおこせ！～

取組の概要

寒川町では、どの学校においてもどちらかと言えば「運動が好き」と答える児童の数が多く一方で、「やや苦手、苦手」と思っている児童が全国や県よりやや多い。また、一日の運動時間がやや少なく、休み時間の過ごし方では、「校舎内で過ごすことが多い」を選ぶ児童が男女ともにかなり多い。（平成27年度の分析より）

そこで、子どもたちが校舎外に出て体を動かす時間を増やし、「運動は楽しい」と感じさせ、継続させるために、各学校の実態にあった運動習慣のブームを作る工夫に取り組んだ。

とくに、運動会前後は児童のなかでダンスや様々な競技の練習に積極的に取り組むが、活動の少ない冬の時期に学校全体で取り組める活動（ムーブ）を設定した。

取組推進・実施の流れ

6月	・体力向上に向けて説明（教頭会） ・各校に「体力向上キャラバン隊」（小谷小）での研修を活かした体力テストを呼びかけ
7月	ゴール型ゲーム運動研修会（校内研修）
8月	
9月	↑ ↓ 運動会練習、取組
10月	↑ ↓
11月	↑ ↓ 各校でのムーブでブーム期間
12月	業間マラソン（持久走）、なわとび がんばりタイム 運動習慣カードの活用
1月	・各校での取組、報告・確認 ↓

取組の成果と課題

各校での実態に合わせた取組を行った。がんばりタイム、業間マラソンなど児童会の体育委員会などが主体となって、全校で行うことで、外で体を動かすことの楽しさを感じさせることができた。また、カードの工夫などは、子どもたちに意欲を持たせ、達成感につながった。

課題は、今後は普段の体育の授業改善を通して、遊具、教具などを使いながら、どのようなブームを起こすか、また継続的に子どもたちが外遊びに参加するような工夫が必要である。

これからも各校の良い取組を参考にし合いながら、運動の習慣化について考えていきたい。

【 中学校の取組 】

体づくり運動の有効活用

取組の概要

中学校においては、運動が好きおよび得意とする男子生徒が全国や県よりもかなり多い。女子はあまり好きでない、やや苦手、苦手とする数が多い。ところが男女ともに体育・保健の授業は楽しいと感じている生徒が多い。授業内のできるようになったことをきっかけに、「教員からの支援、友だちとの協働、授業での工夫」を理由にあげており、今後も授業の工夫や充実を図ることが大切であると考えます。

そこで、生徒自身が自分の体力、運動能力について知り、体力の向上に向けて自ら工夫して取り組む機会を授業づくりの中で設定した。

例えば、体づくり運動の効果的な取り入れ方や、生徒が主体的に授業に取り組むような工夫、改善などについて各校で実践を行った。

取組推進・実施の流れ

6月	・体力向上に向けての説明（教頭会） ・各校にて体力づくりに向けた取組検討（推進委員より）
7月	各校での取組
8月	
9月	↑ ↓ 体育大会の練習、取組
10月	各校での取組
11月	
12月	
1月	・各校での取組、工夫を報告・確認

取組の成果と課題

体力の向上および習慣化には、生徒が運動に取り組む喜びや達成感を味わう経験が大切である。生徒には、運動に取り組む姿勢や意欲に男女での違いはあるものの、その意義について理解できるように、どの中学校でも体育科教員が指導の工夫や研究に取り組んでいる。

本年度の推進校の取組にもあるように、生徒自身が自分に必要な補強運動、準備体操などを理解し、自主的に取り組むようになるためには、技能の上達、向上を意識できる授業づくりが必要である。1年間の授業計画の中で、または3年間の授業を通して、種目や内容および自己の運動能力・体力・生活習慣の分析などを今後も大切にしたい。

厚木市の取組

担当課

学校教育課

【 小学校の取組 】

児童の全身持久力の向上を目指した学校での取組

取組の概要

- 厚木市の児童及び小学校の実態について
 - ・新体力テストの結果では全国平均と比較すると、男子では握力、女子ではソフトボール投げが上回っており、逆に男女とも反復横とびと 20mシャトルランは大幅に下回っている。
- 取組のねらいについて
 - ・全身持久力に課題があると考え、学校行事や体育の授業の工夫によって、児童が楽しみながら全身持久力を高めることができるよう取り組む。
- 取組の内容について
 - ・学校保健委員会による啓発活動の実施。
 - ・体力づくり月間の実施。
 - ・体育の授業における3分間走の導入。
 - ・体育の授業における運動遊びの導入。

取組推進・実施の流れ

6月	
7月	
8月	
9月	
10月	○体育授業導入時における3分間走 ○学校保健委員会開催
11月	○体育授業における運動遊び
12月	○体力づくり月間
1月	

取組の成果と課題

- 簡単な運動遊びでは、ゲーム感覚で楽しく取り組むことができ、運動嫌い、苦手な児童にも好評であった。また短時間で十分な運動量を確保できるため、非常に有効であった。
- 体力づくり月間がマンネリ化しないよう、カードや校内掲示など意欲を高め工夫が必要である。
- この取組や具体的な運動遊びなどを活用できるよう広めていく。

【 中学校の取組 】

異学年との交流を通して ～昼休みレクリエーション大会～

取組の概要

- 厚木市の生徒及び中学校の実態について
 - ・新体力テストの結果では、男子は持久走と 50m走、女子は 50m走が全国平均を上回った。逆に大幅に下回ったものとしては男子が反復横とび、女子が上体起こしと反復横とびがある。
 - ・全国平均と比較すると、運動の大切さを感じる生徒が少ない。またそのため中学卒業後に自主的に運動をしようとする生徒も少ない。
- 取組のねらいについて
 - ・運動の楽しみを味わうことにより、運動に対する意欲を高める。
 - ・縦割り活動を活用することにより参加しやすい環境を作り、運動の苦手な生徒を活動参加に導く。
- 取組の内容について
 - ・委員会活動による運動啓発。
 - ・昼休みのレクリエーション開催

取組推進・実施の流れ

6月	○昼休みの活動場所検討（生徒総会） ○昼休み貸出物品の増加検討
7月	
8月	
9月	
10月	
11月	○昼休みレクリエーション大会 ○昼休み体育館開放実施
12月	
1月	

取組の成果と課題

- 生徒の発案によって「昼休みの体育館開放」という新たな取組を実施したことは意義がある。定着しなかったが、今後課題解決に向けて取り組むことが大切である。
- 運動を「実践する」「応援する」「運営する」など様々な立場での運動を味わうことができ、運動に対する意欲が高まった。また「実践したい」と感じた生徒も出ていることは大きな成果である。
- この取組を他校でも活用できるよう発信していく。

大和市の取組

担当課

大和市教育局指導室

【 小学校の取組 】

体力テストの確実な実施

研究実践校の取組の支援と周知

取組の概要

- 大和市の児童及び小学校の実態について
 - ・体力合計点に関しては、この3年間を比較すると緩やかに向上しているが、全国平均と比較すると低い。
 - ・適切な運動・生活習慣が確立していない児童が多い。
 - ・健康体力づくりに重点を置いている学校が少ない。
- 取組のねらいについて
 - ・各校が、児童の実態を把握し、適切な環境整備のもとで、体力テストを実施すること。
 - ・研究実践校2校（大野原小・文ヶ岡小）の取組を周知し、各校の取組の活性化を目指す。
 - ・健康・体力づくり推進に向けたプランの作成。
- 取組の内容について
 - ・昨年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果を、配付し、実態を再確認した上で今年度実施を依頼。
 - ・研究校の実践を踏まえ、研究部会を主催し、健康・体力づくり実践方法に関する冊子を作成。

取組推進・実施の流れ

6月	体力テスト実施関係 ・円滑な実施のためのサポート	健康・体力づくり研究部会の開催
7月	・器具の貸し出し など	
8月	健康・体力づくり研究実践発表 (2校) への参加呼びかけ	
9月	教頭会への情報提供	
10月		
11月	健康・体力づくり研究実践発表(2校)	
12月		
1月		

取組の成果と課題

- ・確実な体力テスト実施のために、異学年縦割りグループによる実践など、工夫する学校が増えてきた。
- ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果分析を踏まえ、授業改善、行事や日課表の工夫、家庭への呼びかけなど、具体的方策について周知していく必要がある。
- ・運動習慣・食習慣ともに、家庭との連携が必要である。よりスムーズな連携を目指したい。
- ・体力テスト結果も踏まえ、体力向上・生活習慣改善のためのPDCAサイクルをもとにした計画が、各校に必要。

【 中学校の取組 】

体力テストの確実な実施

研究実践校の取組の支援と周知

取組の概要

- 大和市の生徒及び中学校の実態について
 - ・体力合計点に関しては、この3年間を比較すると緩やかに向上しているが、全国平均と比較すると低い。
 - ・健康体力づくりに重点を置いている学校が少ない。
- 取組のねらいについて
 - ・各校が、生徒の実態を把握し、適切な環境整備のもとで、体力テストを実施すること。
 - ・小中学校の連携の推進。
 - ・健康・体力づくり推進に向けたプランの作成。
- 取組の内容について
 - ・昨年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果を、配付し、実態を再確認した上で今年度実施を依頼。
 - ・小学校研究発表会への保健体育科教員の参加を促す。
 - ・研究校の実践をふまえ、研究部会を主催し、健康・体力づくり実践方法に関する冊子を作成。

取組推進・実施の流れ

6月	体力テスト実施関係 ・円滑な実施のためのサポート	健康・体力づくり研究部会の開催
7月	・器具の貸し出し など	
8月	健康・体力づくり研究実践発表 (2校) への参加呼びかけ	
9月		
10月		
11月	健康・体力づくり研究実践発表(2校)	
12月		
1月		

取組の成果と課題

- ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果分析を踏まえ、授業改善、行事や日課表の工夫、家庭への呼びかけなど、具体的方策について周知していく必要がある。
- ・運動習慣・食習慣ともに、家庭との連携が必要である。よりスムーズな連携を目指したい。
- ・体力テスト結果も踏まえ、体力向上・生活習慣改善のためのPDCAサイクルをもとにした計画が、各校に必要。

海老名市の取組

担当課	海老名市教育委員会 教育支援課
-----	--------------------

【 小学校の取組 】

【 中学校の取組 】

基本的な生活習慣の定着と体力の向上をめざして —「元氣なえびなっ子プラン」を柱として—

取組の概要

- 海老名市の児童及び小学校の実態について
 - ・全国調査から分かる実態
 - ◎運動をすることが好きな児童の割合が高い。
 - ◎朝食を毎日食べている児童の割合が高い。
 - ◎8時間以上睡眠をとっている児童の割合が高い。
 - ▲新体力テストの結果は、全国を下回る。（特に、反復横とびと20mシャトルラン）
 - ・各小学校では体力づくり（なわとび運動やマラソンタイム等）の取組を計画して実践している。
- 取組のねらいについて
 - ・基本的な生活習慣の定着と体力の向上をねらいとする。その結果、児童一人ひとりが自らの健康や体力に関心を持ち、生涯にわたって目標を持って運動に親しむことを期待している。
- 取組の内容について（市で予算計上しているもの）
 - ・「元氣なえびなっ子プラン」を策定し、東海大学体育学部と連携し、学生を実践研究校（2小学校）へ派遣。
 - ・全小学校の水泳学習授業を屋内プールにて実施。
 - ・全小学6年生による小学校連合運動会を開催。

取組推進・実施の流れ

～6月	新体力テストの実施（各校） ●元氣なえびなっ子プラン研究校の取組推進 ●全小学校の屋内プール水泳学習授業協力 生活習慣啓発ポスター作成・各校配付
7月	
8月	
9月	小学校体育部会授業研究参加
10月	トップアスリートのスポーツ教室実施 小学校連合運動会の実施サポート
11月	（研究校）東海大と体育授業の連携 全国学状調査から児童生活習慣分析・報告
12月	
1月	小学校体育部会授業研究参加 全国体力調査から児童体力、運動習慣分析

取組の成果と課題

各小学校の体力づくりを目的とした取組とともに、実践研究校への東海大学体育学部の学生派遣や連合運動会の開催等の機会が、すすんで運動に取り組む児童の姿につながった。今後は、運動能力の向上へ向けて、日常の体育授業の改善とともに、保護者や地域の方、学生ボランティアとの連携する取組を推進していきたい。

取組の概要

- 海老名市の生徒及び中学校の実態について
 - ・全国調査から分かる実態
 - ◎運動をすることが好きな生徒の割合が高い。
 - ◎8時間以上睡眠をとっている生徒の割合が高い。
 - ◎新体力テストの結果は、全国を下回っているものの、小学校時よりも向上している。
 - ▲携帯やスマホの利用時間が多い生徒の割合が高い。
 - ・各中学校では運動部活動が充実しているとともに、生徒会活動で体力づくりの取組を計画して実践している。
- 取組のねらいについて
 - ・基本的な生活習慣の定着と体力の向上をねらいとする。その結果、生徒一人ひとりが自らの健康や体力に関心を持ち、生涯にわたって目標を持って運動に親しむことを期待している。
- 取組の内容について（市で予算計上しているもの）
 - ・「元氣なえびなっ子プラン」を策定し、東海大学体育学部と連携し、学生を実践研究校（1中学校）へ派遣。
 - ・全中学校支援級の水泳学習授業を屋内プールにて実施。
 - ・全中学校へ部活動外部指導者を派遣サポート。

取組推進・実施の流れ

～6月	新体力テストの実施（各校） ●元氣なえびなっ子プラン研究校の取組推進 ●部活動外部指導者派遣サポート ●支援級の屋内プール水泳学習授業協力 生活習慣啓発ポスター作成・各校配付
7月	
8月	
9月	
10月	（研究校）東海大と体育授業の連携
11月	全国学状調査から生徒生活習慣分析・報告
12月	
1月	全国体力調査から生徒体力、運動習慣分析

取組の成果と課題

各中学校における教員の専門的な指導による体育授業の充実及び生徒の運動部活動への意欲的な参加により、高い運動能力が維持された。今後は、基本的な生活習慣を定着させるための啓発活動や生徒の運動時間が二極化している現状を改善する取組を、学校・保護者・地域・行政が連携して推進していきたい。

座間市の取組

担当課	座間市教育委員会 教育指導課
-----	-------------------

【小学校の取組】
外遊びで健康に
～大なわ週間・大なわ大会を通して～

取組の概要

- 座間市の児童及び小学校の実態について
 - ・体力テストの結果では、立ち幅跳び、体力合計点に課題があり、女子の方が顕著に出ている。
 - ・運動時間確保の取組や低力向上に係る説明、呼びかけ等の項目では良い結果がある。
- 取組のねらいについて
 - ・体育委員会を中心とした子どもからの投げかけをもとに各学校内で運動する習慣の定着を図る。
 - ・引き続き、体力向上の働きかけを通じて、体を動かすことの心地よさを体感し、より運動がしやすい環境にもっていくことをねらっている。
- 取組の内容について
 - ・座間市チャレンジデーに参加。
 - ・ロングタイム昼休みの実施
 - ・ペア学年による多様な遊びや運動習慣の伝達
 - ・体育委員会の取組

取組推進・実施の流れ

6月	チャレンジデー参加（5月末） 市小研体育部会 情報交換	ロングタイム 昼休み・ペア 学年による遊び
7月	市小研体育部会 情報交換	
8月		
9月		
10月	市小研体育部会 情報交換	
11月		
12月	体育委員会の取組	
1月	体育委員会の取組	

取組の成果と課題

- チャレンジデー参加は市内11校全校参加した。
- ロングタイム昼休みは各校の実態に合わせて実施している。
- ペア学年での遊びは11校中7校が実施した。
- 体育委員会の取組は11校中全校で実施した。
- 各種の取組は、運動を好む児童を育てていくことにつながっていると感じているが、長いスパンで見ると、それが次年度にどれだけ同じ児童が高まっているのか等の把握が難しくなる。また、各担当の努力によることもあるので、学校としての定着を図るまで時間が必要になると思われる。

【中学校の取組】
運動する機会を増やし体力向上

取組の概要

- 座間市の生徒及び中学校の実態について
 - ・体力テストの結果が全国平均を下回っている。
 - ・運動、スポーツを実施している割合が全国平均よりもやや低い。
 - ・体力に自信がある・ふつうと答えた生徒が全国平均よりもやや低い。
 - ・授業での補強運動、昼休みのボール貸出等を行い、体力向上の取組を行っている。
- 取組のねらいについて
 - ・授業以外で運動を行う機会を増やす。
 - ・学校の行事・市の行事に参加し、運動をすることの楽しさや喜びを味わう。
- 取組の内容について
 - ・引き続き、市で取り組んでいる体力向上の取組を実施。
 - ・座間市チャレンジデーに参加。
 - ・駅伝・マラソン大会、球技大会等の体育行事の実施。

取組推進・実施の流れ

6月	チャレンジデー参加（5月末） 市教研教科部会にて取組の提案	授業での補強運動 昼休みのボール貸出
7月		
8月		
9月	体力テスト結果を用いて指導	
10月		
11月		
12月	駅伝大会、マラソン大会	
1月	市教研教科部会にて取組内容の確認 球技大会（3月実施予定）	

取組の成果と課題

- チャレンジデー参加は市内6校全校参加した。
- 駅伝大会・マラソン大会は市内3校実施した。
- 球技大会は市内6校中5校実施した。
- 昼休みの体育館開放は学校事情により行えなかった。
- 運動する機会が増えたことで、体を楽しく動かすことを実感できた。
- 各校の事情が異なるため、共通した時間が取りにくいことと、情報共有や推進する機会が少ないこともあり、市内全校で行うことが限られてくる。

綾瀬市の取組

担当課

教育指導課

【 小学校の取組 】

みんなで走って走力UP！！

取組の概要

- 綾瀬市の児童及び小学校の実態
 - ・外遊びをする児童としない児童、男子児童の2極化とともに、外遊びでの活動の偏り、女子児童が室内で過す傾向が見られている。
 - ・新体力テストの結果からは、走力に課題がある。
- 取組のねらいについて
 - ・運動遊びをする機会を増やすことで、体力づくりと外遊びの習慣をつけ、走力を中心とした体力の向上を図ることをねらいとする。
- 取組の内容
 - ・異学年交流（縦割りグループ、交流学年）の場を設け、仲間とともに集団で遊ぶ楽しさを味わわせる。
 - ・異学年交流を取り入れたイベントを企画し、集会を目指して異学年で教え合いながら練習する。
 - ・ロング昼休みを活用し、外遊びをする時間を確保する。

取組推進・実施の流れ

6月	小学校での取組について計画・立案（提案） 異学年交流活動
7月	小体研運営委員会で周知
8月	
9月	↓ 計画立案
10月	↓ 実施
11月	
12月	
1月	↓

取組の成果と課題

- 異学年交流の外遊びは、各校での活動に違いはあるものの、全小学校で実施することができた。大縄集会や持久走大会など、各校のアイデアでイベントを設けることで、集会や大会当日に向けて異学年グループで練習をしたり、自主練習をしたりするなど、進んで活動する姿が多く見られるようになるとともに、走力を高める機会を設けることができた。
- 走力については、次年度以降も新体力テストでの結果で確認しながら、今後も向上を図っていきたい。

【 中学校の取組 】

運動（体力）に対する意識の向上

取組の概要

- 綾瀬市の生徒及び中学校の実態
 - ・運動が好きな生徒が多く、授業では積極的に活動しているが、運動への目的意識や体力向上への関心は低い。
 - ・学びを意識して活動している生徒も少ない。
- 取組のねらいについて
 - ・学習の展開を工夫し、授業改善することにより、運動への目的意識を高め、体力の向上を図ることをねらいとする。
- 取組の内容
 - ・体力テストを実施し、結果をもとに自己の体力について分析し、振り返る活動を設ける。
 - ・体育の授業において、活動内容（種目）に応じた補強運動を毎時間実施する。
 - ・体力向上への意識、自己の学びに対する目的意識を高めるために、めあての提示と振り返りを実施する。

取組推進・実施の流れ

6月	中学校での取組について計画・立案（提案）
7月	取組の企画
8月	↓
9月	毎時間の体育授業で実施
10月	
11月	
12月	
1月	↓

取組の成果と課題

- 活動内容（種目）に必要な補強運動について、目的意識を持たせられるよう工夫することで、主体的に取り組む姿が見られるようになってきた。また、めあての提示と振り返りを実施することで、運動に対して考えながら取り組む姿が見られるようになってきた。
- 補強運動の継続的な取組のためには、授業の中での時間配分、単元計画の工夫が今後も必要である。また、生徒の目的意識を高めていくためには、今後も授業改善が必要である。また、全校での取組の充実を図るためには、各校の体育担当の連携・協力も課題である。

愛川町 の取組

【 小学校の取組 】

体育学習における ユニバーサルデザイン化

取組の概要

○児童及び小学校の実態について

【外国籍児童や特別な支援が必要な児童が多い】

- ・外国につながる児童が全校児童の約2割。
- ・言葉だけの説明では内容の理解が苦手な児童が多い。
- ・運動に対して積極的な児童と消極的な児童の二極化。

○取組のねらいについて

【全員が楽しく「わかる・できる」体育】

- ・児童が、授業の内容・運動のポイントを正しく理解し、楽しく取り組めるようにする。
- ・「視覚化」「スモールステップ」「ルールの工夫」「教材教具の工夫」の4つの視点を意識した授業作りにより、楽しさを味わい進んで取り組めるようにする

○取組の内容について【体育の授業における取組】

(1)視覚化

- ・タブレットPCの活用（器械運動／ボール運動）

(2)スモールステップ化

- ・技術的な面を細かく課題設定

(3)ルールの工夫

- ・傾斜得点システム・チームワーク得点システム

(4)教材・教具の工夫

- ・360°どこからでも狙え、高さを変えられるゴール
- ・2本の棒に赤いすざらんテープをつけたハードル

取組推進・実施の流れ

6月	体育委員会企画・クラス遊び・ラジオ体操	
7月	体力測定	
8月		
9月		
10月		
11月		
12月	なわとび月間	
1月	持久走旬間（2w）	
2月		↓

取組の成果と課題

- 成果
- ・体育の授業に積極的に参加する児童、楽しいと感じる児童が増えた。
 - ・コツが分かって運動のポイントを理解できたり、できなかった技ができるようになったりして、運動の楽しさを味わうことができた。

- 課題
- ・休み時間の運動に対する積極性の二極化
 - ・体を動かしたくなる「時間・空間・仲間」の3要素を意識した学校全体での取組から運動の日常化へ
 - ・推進校の取組を全校へ広める機会の設定が難しいため、情報提供の方法を工夫していく。

担当課

愛川町教育委員会指導室

【 中学校の取組 】

運動の推進と体力向上

取組の概要

○生徒及び中学校の実態について

【昼休みなどの時間に運動をしていない生徒が多い】

- ・昼休みに体を動かしている生徒が非常に少ない。
- ・柔軟性が足りず予期しないところで怪我をしている。
- ・運動部に入っているかによる運動機会の差。

○取組のねらいについて

【基礎体力の向上と楽しく運動する機会の保障】

- ・自ら進んで運動する生徒の育成。
- ・運動の楽しさを感じ、仲間と交流する。
- ・年間を通して、運動に親しみ体力の向上を図る。

○取組の内容について

【1 昼休みの運動推進】生徒会体育委員会

- ・昼休みボール等貸し出し ・曜日ごとに体育館を開放
- ・学年ごと昼休みにトレジャーハント大会等の企画運営

【2 中原カップの開催】

- ・体育委員会が企画、昼休みのスポーツ大会開催（バレーボール大会、ドッジボール大会）

【3 保健体育科の授業での取り組み】

- ・授業開始前の補強運動を全学年統一、同じ内容を継続（ランニング、腕立て伏せ、腹筋、背筋、馬跳び）

【4 中原ストレッチの実施】

- ・月1回、帰りの会に体育委員が主導で数分間行う。

取組推進・実施の流れ

6月	体育委員会ボール貸出・体育館開放	
7月		
8月		
9月	中原カップ①	↓
10月		↓
11月	中原カップ②	↓
12月		↓
1月	中原カップ③	↓
2月		↓

取組の成果と課題

- 成果
- ・日頃から体育委員から声かけを行うことで、体育館で活動する生徒が増えた。
 - ・スポーツ大会等では、応援も多数集まり、日頃から運動に親しみ取り組むきっかけになった。
 - ・継続的な体力づくりにより、様々な動きに力強さが出て、達成感を感じる生徒も増えた。

- 課題
- ・グラウンドに出て遊ぶ生徒は、まだまだ少ない。
 - ・ボール等の用具、施設的环境整備が不可欠。
 - ・運動が苦手な生徒を巻き込んでいくこと。
 - ・推進校の取組を全校へ広める機会の設定が難しいため、情報提供の方法を工夫していく。

清川村の取組

担当課

清川村教育委員会
事務局 学校教育係

【 小学校の取組 】

*体力向上を目指した朝休みの取組と体育指導の工夫

取組の概要

○市町村の児童及び小学校の実態について

- ・本村には、小学校が2校ある。
- ・決まった時間に就寝及び起床するという傾向が見られ、規則正しい生活リズムの定着が窺える。
- ・休み時間に、外で体を動かす児童もいるが、教室などで過ごす児童も少なくない様子が見られる。
- ・各校では、朝休みを活用して、全校での朝マラソンやなわとび（長縄・単縄）に継続して取り組んでいる。
- ・体育の授業で、単元に応じた動き（準備運動等）を適宜取り入れ、体力の向上につなげる取組を行っている。

○取組のねらいについて

- ・児童の実態や学校の状況を踏まえ、次の点を主なねらいとして実践している。
 - ◇ 積極的に体を動かすことで体力の向上につなげる。
 - ◇ 児童一人一人が自らの健康や体力に関心を持ち、目標を持って活動に取り組む。
 - ◇ 活動を通して、互いの良さに気づき、認め合う気持ちを高め、より良い仲間作りにつなげる。

○取組の内容について

- ・朝休みの時間を利用して、両校ともに、時期を考慮しながら朝マラソンやなわとびに継続して取り組んだ。また、年数回行われる学校間交流でも、校内のマラソン大会を位置付け、全学年の児童が普段の取組の成果を発揮する機会となった。
- ・11月には、村主催の「清川やまびこマラソン大会」が開催され、児童は勿論、保護者や教職員も積極的に参加した。

取組推進・実施の流れ

5月	・朝マラソン ※長縄（学校の実態に応じて実施）
10月	継続的な取組
11月	・清川村やまびこマラソンへの参加 （任意）
12月	・長縄・単縄（～1月） ※朝マラソン（学校の実態に応じて実施）
3月	・朝マラソン 継続的な取組

取組の成果と課題

- ・成果として、自己または学級での目標を持って継続的に取り組むことで、仲間と関わることの良さや運動に対する達成感、意欲の向上などが見られた。今後も、学校間交流などの機会も含め、朝マラソンや長縄等、小学校の取組として継続していけることが大切であると考え。

【 中学校の取組 】

*生徒の主体性を生かした昼休みの取組

取組の概要

○市町村の生徒及び中学校の実態について

- ・本村には、中学校が2校ある。
- ・朝食の喫食率について、肯定的な回答の割合が非常に高く、毎日の起床時刻もほぼ同時刻であるという回答についても、同様に高い数値を示している。
- ・休み時間には、積極的に体を動かす生徒もいるが、教室で過ごす生徒も見られ、運動部と文化部によって運動量に偏りがある。
- ・生徒会や委員会が主体となって、昼休みの運動やスポーツ大会の企画・運営にあたっている。

○取組のねらいについて

- ・生徒の実態や学校の状況を踏まえ、次の点を主なねらいとして実践している。
 - ◇ 昼休みに外に出て体を動かすことで、運動量の増加と健康の保持増進を目指す。
 - ◇ 自らの健康や体力に関心を持ち、日常生活に生かす。
 - ◇ 生徒による企画・運営により、運動に対する主体性を養うとともに、より良い仲間づくりにつなげる。

○取組の内容について

- ・生徒会が中心となって積極的な運動の機会を設けることで、生徒への運動の推進を図った。
- ・学級委員会などが主体となって、異学年交流による運動への取組や運動の促進等を目的としたスポーツ大会を実施した。
- ・教職員と共に取り組めるようなルールや活動の工夫にも取り組んだ。

取組推進・実施の流れ

5月	・全校生徒と教職員による運動 ※学校の創意工夫による取組
10月	継続的な取組
11月	・スポーツ大会の実施（第1回） ※学校の実態に応じた取組
2月	・スポーツ大会の実施（第2回） ※学校の実態に応じた取組
3月	継続的な取組

取組の成果と課題

- ・成果として、生徒が主体となって運動やスポーツ大会を企画・運営することで、運動や体力等への興味や関心が高まり、積極的に体を動かす生徒が増えた。今後は、こうした取組を学校間交流での機会や、共通の取組として学校の実態に応じた形で進めていけたらと考える。

平塚市の取組

担当課

平塚市教育委員会教育指導課

【 小学校の取組 】

進んで体を動かす児童を目指して

取組の概要

- 市町村の児童及び小学校の実態について
 - ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果から、体力面において課題が見られる。
 - ・1週間の総運動時間は少なくはない。
 - ・家の人から積極的に運動を勧められる児童は多くはない。
- 取組のねらいについて
 - ・体力を高める取組
 - ・運動時間を確保する取組
 - ・体力の実態把握に関する取組
- 取組の内容について
 - ・授業改善
 - ・休み時間の活用
 - ・運動の習慣化・日常化
 - ・新体力テスト・50m走の実施とデータ活用

取組推進・実施の流れ

6月	↑	体育科主任会にて 平塚市としての取組を確認
7月		具体的な実施内容としては、体育の授業における学習カードの工夫、休み時間における運動行事の企画、Joy! Joy! 通信の家庭への配布、新体力テストの確実な実施とデータ活用等。
8月		
9月		
10月		
11月		体育科主任会にて 各校の取組について情報交換
12月		
1月	↓	

取組の成果と課題

- ・授業改善については、運動量の確保や準備運動の工夫等に取り組んだ。なお、休み時間の活用については、体育委員会を中心とした運営により、子どもたちの積極的・自主的な参加を促す学校が多かった。また、運動の習慣化・日常化については、Joy! Joy! 通信を活用するなどして、家庭に対し、長期休業中における運動への取組について啓発等を行った。
- ・今後は、成果を客観的なデータとして捉え、PDCA サイクルを確立することが求められる。

【 中学校の取組 】

運動を習慣化・日常化しよう！

取組の概要

- 市町村の生徒及び中学校の実態について
 - ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果から、体力面において課題が見られる。
 - ・1週間の総運動時間は少なくはない。
 - ・ゲームやスマートフォンに費やす時間が多い。
- 取組のねらいについて
 - ・体力を高める取組
 - ・運動への関心を高める取組
- 取組の内容について
 - ・授業改善
 - ・運動の習慣化・日常化
 - ・新体力テスト・50m走の実施とデータ活用
 - ・運動部活動の活動等の紹介・広報

取組推進・実施の流れ

6月	↑	
7月		体育科主任会にて 平塚市としての取組を確認
8月		具体的な実施内容としては、体育の授業における学習カードの工夫、長期休業中の課題や目標設定、新体力テストの確実な実施とデータ活用、運動部活動の紹介等。
9月		
10月		
11月		
11月		体育科主任会にて 各校の取組について情報交換
12月		
1月	↓	

取組の成果と課題

- ・「授業改善への取組」については、市内15校中14校が、「運動の習慣化・日常化への取組」については12校が、「新体力テスト・50m走の実施とデータ活用の取組」については13校が、「運動部活動の活動等を紹介する取組」については15校が、「十分取組めた」あるいは「少し取組めた」と回答した。
- ・各校において、自校の生徒の体力等について分析する視点をもつことで、様々な取組が行われたことは成果であると考え。今後は、成果を客観的なデータとして捉え、PDCA サイクルを確立することが求められる。

秦野市の取組

担当課

秦野市教育委員会教育指導課

【 小学校の取組 】

*持久力の向上を目指して ～5分間マラソン～

取組の概要

○市町村の児童及び小学校の実態について

平成 28 年度の本市の体力合計点は男女とも全国平均を下回っていますが、男女とも平成 26 年度から徐々に体力合計点は高まってきて、3 年間では最高になっています。種目では、反復横跳びや 20m シャトルランは毎年全国平均を大きく下回っている傾向があります。

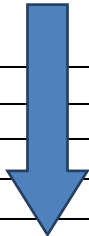
○取組のねらいについて

持久力に課題が見受けられるので、体育授業の帯活動として継続的に行うことができ、発達に適した運動要素を取り入れていくように考えました。

○取組の内容について

体育の毎時間に 5 分間持久走に取り組みました。学習カードを作成し、児童が目標を持って取り組むことができるようにしました。

取組推進・実施の流れ

6月	推進委員会で内容を決定する	
7月		体育の授業で5分間マラソンの実施
8月		
9月		
10月		
11月		
12月		
1月	今年度の反省と次年度への展望	

【 中学校の取組 】

*体力向上を意識した、楽しい と思えるサーキットトレーニング・補強運動の導入

取組の概要

○市町村の生徒及び中学校の実態について

平成 28 年度の本市の体力合計点は男女とも全国平均を下回っていますが、男子は神奈川県をわずかながらですが上回っています。種目では長座体前屈においては男女とも全国平均を上回り、立ち幅跳び・ハンドボール投げは男女とも神奈川の平均を上回っていますが、小学校と同様に反復横跳びや 20m シャトルランは毎年全国平均を大きく下回っている傾向があります。

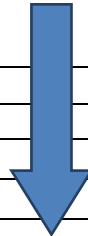
○取組のねらいについて

今までも体育の授業の準備運動ではランニングなどを行っていましたが、楽しく取り組めるサーキットトレーニングを取り入れることにより、生徒が飽きないような工夫をしました。

○取組の内容について

ハードルやラダーなどを設置したり、場で行う課題を与えたりして、ランニングを行いながら様々な運動要素を取り入れました。

取組推進・実施の流れ

6月	推進委員会で内容を決定	
7月		体育の授業の準備運動でサーキットトレーニングの実施
8月		
9月		
10月		
11月		
12月		
1月	今年度の反省と次年度への展望	

取組の成果と課題

今年度より本市では、子どもたちのさらなる体力向上を目的とした幼小中体力向上研究部会を設置し、月 1 回のペースで会合を開いています。研究部会のメンバーは、こども園 (1 名) ・小学校 (2 名) ・中学校 (2 名) です。

テーマは「発達段階に応じた体力向上のための手立て」として幼小中それぞれの段階に応じて、授業のはじめの準備運動として取り組むことができる、また幼児・児童・生徒が楽しんでできるサーキットトレーニングの検討をしています。ねらい、根拠を明確にし、発育・発達に適しているかを今後も考えていきます。また子どもたちが自主的に取り組み楽しめるものかも課題になってきます。今年度の子どもの様子では走るだけの準備運動から様々な障害物が設置されたコースに変更されたことによりとても楽しそうに障害物に挑戦していた様子が見受けられたそうです。

幼稚園・こども園においては、平成 23 年度から平成 25 年度にしぶさわ幼稚園が取り組んだ「子ども JOY! JOY! プラン」の実践を参考にしながら、小学校低学年・中学年においては遊びと授業をどのようにつなげることができるかを考え、小学校高学年・中学校においては、全国体力テストの結果を元にして本市の子どもの課題を解決するためにはどのような運動要素をサーキットトレーニングに取り入れていけばいいかが重要になってきます。今後はこの取組を市内の全学校に広げて生きたいと考えています。

伊勢原市の取組

担当課

伊勢原市教育委員会指導室

【 小学校の取組 】

多様な動きで、体力Up大作戦！！

取組の概要

- 児童の実態
体力の低下、多様な動きが難しい児童
・休み時間に外遊びをする児童が固定化されている。
・全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果では、県平均を下回る項目もある。
- 取組の目標
様々な運動を通して、体力の向上を
・体育の授業に帯活動として補助運動を取り入れる。
・休み時間を活用し、体を動かす機会を設ける。
- 取組内容
・体育の授業で5分間縄跳びを継続実施
・休み時間の大なわ大会やドッジボール大会の開催
・Joy!Joy!通信の活用

取組推進・実施の流れ

6月	各小学校間での情報交換及び取組の確認
7月	各校での取組
8月	
9月	
10月	
11月	小学校教育研究会部会において協議
12月	取組の集約
1月	来年度に向けて

取組の成果と課題

- 成果
・体育の授業での帯活動が効果的だった。
・ロング昼休みは外遊びへのよいきっかけ作りとなり、外遊びをする児童が増えた。
- 課題
・大なわ大会などイベントが終わると、練習に取り組む児童が減った。
・遊びの幅を広げ、様々な遊びで楽しめるようにしたい。

【 中学校の取組 】

運動への興味ときっかけづくり

～授業や昼休みの活動の工夫～

取組の概要

- 生徒の実態
運動への取組の二極化がみられる。
- 取組の目標
・昼休みに外で遊ぶことで運動の習慣を身につける。
・積極的に外で遊ぶことで運動量を増やす。
・スポーツ大会を行い、運動の機会をつくる。
- 取組内容
・伊勢原市オリジナル「すこやかリズム体操」の実施
・生徒の委員会活動を通じて、昼休みに外で体を動かす機会づくり
・保健体育の授業において、生徒同士協力し合う場面の設定

取組推進・実施の流れ

6月	各中学校間での情報交換及び取組の確認
7月	各校での取組
8月	
9月	
10月	
11月	中学校教育研究会部会において協議
12月	取組の集約
1月	来年度に向けて

取組の成果と課題

- 成果
・昼休みの活動では学級や学年を越えて運動に親しむ姿が見られた。
・生徒同士が協力し教え合う授業の中で、運動が苦手な生徒が気軽に友達にアドバイスを聞けるようになった。
- 課題
・運動をするきっかけとしてボール等の用具の整備
・昼休みの活動により多くの生徒を参加させる工夫

大磯町の取組

担当課

大磯町教育委員会
教育部学校教育課

【 小学校の取組 】

*チャレンジ「なわとび」運動！

取組の概要

1 大磯町の児童の実態について

全国体力・運動能力等調査では、男女ともに3種目（握力・50m走・立ち幅とび）において全国及び県の平均値を上回る結果となった。一方で、上体起こしと長座体前屈については、全国及び県を下回った。また、「運動は大切」と回答する児童の割合も全国や県よりも下回った。

2 取組のねらいについて

教員の感覚として、運動習慣への2極化が顕著である。そこで、単純に「身体を動かすこと」が児童の中で習慣化・日常化していくことをねらいとした。

3 取組の内容について

大磯町では平成25年に策定した、「大磯町学校教育における子どもの体力向上に向けた取組指針」を踏まえ、各校で工夫しながら体力向上の取組を行ってきた。この成果をもとに、各小学校では「なわとび」を使った運動（授業や休み時間）を全学年で取り入れた。

取組推進・実施の流れ

6月	体力テストの実施・各校での分析
7月	
8月	町教育研究所「保健体育部会」において、小中学校の結果分析をもとに課題を共有、取組を協議
9月	↑
10月	各校でイベント企画・実施
11月	↓
12月	取組状況を共有、体力テスト再実施
1月	町教育研究所「保健体育部会」等において、各校の取組状況を共有

授業中や休み時間に継続して取り組む

取組の成果と課題

体育の授業と関連させて、継続的な取組がある程度達成できた。個人内で自己記録向上を目指したり、仲間とともに教え合いながら様々な技の習得に励んだりする姿も見られた。

しかし、単調な運動になりがちなことに加え、跳べる回数については個人差が大きいため、授業以外に全体へ浸透させる手立てが必要になる。

学級や学年、あるいは学校全体で定期的にイベントを企画・実施することで、年間を通じて児童のモチベーションを保ちながら継続した取組になるよう、引き続き取り組んでいきたい。

【 中学校の取組 】

*3～5分間走で持久力アップ！

取組の概要

1 大磯町の生徒の実態について

全国体力・運動能力等調査では、3種目（握力・長座体前屈・50m走）において全国及び県の平均値を上回る結果となった。一方で、男子のハンドボール投げについては、全国及び県を下回った。また、女子で「体力に自信がある」と回答した割合が全国や県よりも大きく下回った。

2 取組のねらいについて

運動系部活動に所属しているかどうかで、生徒の運動への意欲が大きく異なる。そこで、授業始めに基礎トレーニングの時間を導入することで、生徒一人ひとりが自分の体力と相談しながら運動できるようにした。その結果、生徒の運動に対する意欲が高まることをねらいとした。

3 取組の内容について

大磯町では平成25年に策定した、「大磯町学校教育における子どもの体力向上に向けた取組指針」を踏まえ、各校で工夫しながら体力向上の取組を行ってきた。この成果をもとに、各中学校では「3～5分間走」を保健体育の時間に取り入れ、基礎体力のさらなる向上に取り組んだ。

取組推進・実施の流れ

6月	体力テストの実施・各校での分析
7月	
8月	町教育研究所「保健体育部会」において、小中学校の結果分析をもとに課題を共有、取組を協議
9月	↑
10月	各校でイベント企画・実施
11月	↓
12月	取組状況を共有、体力テストを再実施
1月	町教育研究所「保健体育部会」等において、各校の取組状況を共有

保健体育の授業で継続して取り組む

取組の成果と課題

保健体育の授業と関連させ、一定程度継続した取組にはなった。しかし、部活動を中心として運動への意欲がある生徒とそうではない生徒とでは、取り組む姿勢や成果に大きな違いが見られる。また、忙しい日課の中で、イベントを企画・実施する時間的な余裕が少ない。

昨年度末から中学校給食が実施されたのを契機として、食に対しての興味・関心が高まっている。これと体力づくりを関連させ、生徒自らが運動の必要性を意識し、自身の体調と相談しながら体力向上へ取り組むような働きかけをしていきたい。

二宮町の取組

担当課

二宮町教育委員会教育総務課

【 小学校の取組 】

*楽しく体力向上を目指そう

取組の概要

1 実態：運動機会の二極化

- ・外遊びを楽しむ児童はいるが固定化されている。
- ・立ち幅とび以外は全国平均を上回っている。
- ・休み時間や学校外での運動時間数は下回っている。

2 目標：運動機会の確保、運動意欲の向上

- ・休み時間に運動時間を確保するため『スポーツデー』を実施
- ・体育の授業での活動時間、運動量の確保

3 内容：各種集会、年間計画の改善

- ・ラジオ体操集会、ドッジボール大会、サッカーシュート大会、50m 記録測定会、長縄とび大会
- ・系統性と指導時期を明確にする
- ・学校全体で準備と片付けを効率よく実施

取組推進・実施の流れ

6月	健康・体力づくり推進委員会 取組の方向性を検討 ラジオ体操集会
7月	年間計画の検討
8月	
9月	ドッジボール大会
10月	サッカーシュート大会
11月	50m 記録測定会
12月	長縄とび大会
1月	

取組の成果と課題

- ・児童が事前に練習に励んだり、終了後も長縄とびをしたり意欲的に『スポーツデー』に取り組むことができた。
- ・二宮には小学校が3校ある。他校にも同様の企画があり、教育課程研究会などのおりに各校の情報を交換している。集会活動は児童の主体性を重んじているが、よい実践を紹介するなどしてヒントにしている。
- ・学年をまたいで年間計画を作成することで準備と片付けの効率化と、運動時間・運動量の確保ができた。ただし、時間割の関係で一部のクラスに負担が偏ってしまったのは課題である。

【 中学校の取組 】

*運動をするきっかけづくり

取組の概要

1 実態：運動能力の二極化

- ・運動をする生徒としない生徒の差が大きい。
- ・女子は全国平均を上回っている種目が多いが、男子は下回っている。
- ・昼休みに教室や図書室で過ごす生徒が多い。

2 目標：運動する楽しさを実感する

- ・生徒が主体となって企画・運営をする。

3 内容：スポーツウィーク（年2回）、球技大会（年1回）の企画・運営

- ・自由参加、種目も生徒が選定。
- ・体育館の開放日を設ける。
- ・球技大会優勝チームは教員チームと対戦。

取組推進・実施の流れ

6月	健康・体力づくり推進委員会 取組の方向性を検討
7月	スポーツウィークの企画・運営
8月	
9月	
10月	スポーツウィークの企画・運営
11月	
12月	球技大会の実施
1月	

取組の成果と課題

- ・学年を越えたつながりを意識して企画、運営されていた。
- ・二宮には中学校が2校ある。二宮中学校にも同様の行事がある。小学校時代に培われた自主的な行事運営の力、行事を楽しもうという力が上手に発揮されているように感じる。地域の体育祭やロードレース大会参加の意欲にもつながっていると考えられる。
- ・生徒指導の数が減ったのは大きな成果である。運動が心身の健康や良好な人間関係の構築につながっている。

小田原市の取組

担当課

小田原市教育委員会
教育指導課

【 小学校の取組 】

運動に親しむ習慣づくり、場づくり (運動に積極的でない児童へのアプローチ)

取組の概要

- 小田原市の児童の体力等の現状についての分析
H27全国体力・運動能力、運動習慣等調査(小5対象)の実技調査結果から、全国平均との比較では、男女ともに8種目すべてにおいて下回っていた。質問紙調査によると、「運動が好き」という質問では、ややきらい、きらいと回答した児童の割合は男子が5.7%、女子が9.8%いた。男女ともに体育の授業に関しては、肯定的な回答が多い。
- 体力向上プロジェクト会議の開催(8月、1月)
各学校や市の取組、新体力テストの結果等について、検証及び情報交換等を実施する。
- 体力・運動能力向上指導員派遣
指導員として、体育系大学の学生、教育指導課指導主事を派遣し、日常的に取組める運動や遊びについて児童に直接アドバイスするとともに一緒に運動したり遊んだりする。
- 大学等と連携した体力向上支援
体育授業・体育的行事や学校独自の体力向上の取組がより効果的になるよう、専門的なアドバイス等を実施する。

取組推進・実施の流れ

5月	新体力テストの実施(各校~7月まで)	各校における健康・体力向上の取組
6月	体力・運動能力向上指導員派遣 大学等と連携した体力向上支援	
7月		
8月	体力向上プロジェクト会議①	
9月		
10月		
11月		
12月		
1月	体力の現状分析(市) 体力向上プロジェクト会議②	

取組の成果と課題

- 体力・運動能力向上指導員として、体育系大学の学生を派遣することで、多くの児童、教員が身近な人と一緒に体を動かすことの楽しさや運動やスポーツを通して人と関わることの楽しさを感じることができた。新体力テストの計測時に、派遣された指導員がコツやポイントを伝えたり、教員と一緒に励ましたりすることで運動に積極的でない児童も意欲的に取組む姿が見られた。
- 平成28年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の実技調査の結果では、体力合計点の本市平均値に向上が見られた。また、総合評価D・E層の児童の割合も減少した。
- 運動習慣等を日常化していくことが今後の課題である。

【 中学校の取組 】

生徒主体の運動習慣づくり (運動に積極的でない生徒へのアプローチ)

取組の概要

- 小田原市の生徒の体力等の現状についての分析
H27全国体力・運動能力、運動習慣等調査(中2対象)の実技調査結果から、全国平均との比較では、男女ともに幾つかの種目で上回っているが、下回った種目の方が多いという結果であった。質問紙調査では、運動に関する意識や運動習慣・生活習慣については、ほぼ全国と同じ傾向であった。
- 授業以外の時間における生徒主体の運動機会の設定
各学校において、生徒が主体となった体育的活動、体力向上に向けた取組を実施する。
- 体力向上プロジェクト会議の開催(8月、1月)
各学校や市の取組、新体力テストの結果等について、検証及び情報交換等を実施する。
- 著名なアスリート派遣(小学校も実施)
著名なアスリートを学校に派遣し、経験に基づくデモンストラクション、実技指導や講話を行うことで、生徒の運動やスポーツに対する興味関心を高める。

取組推進・実施の流れ

5月	新体力テストの実施(各校~7月まで)	各校における生徒主体の体力向上への取組
6月		
7月		
8月	体力向上プロジェクト会議①	
9月		
10月		
11月		
12月	著名なアスリート派遣(~3月まで)	
1月	体力の現状分析(市) 体力向上プロジェクト会議②	

取組の成果と課題

- 授業以外の時間における生徒主体の運動機会の設定例
 - ・生徒会や体育委員が企画、立案し、昼休みにスポーツ大会を実施。運動する生徒以外にも、応援等で参加する生徒も多く、学校全体で運動への意識が高まっている。
 - ・学校の広い敷地を生かしたり、近くの海岸等を利用して、持久走を実施。一人一人のレベルに応じて目標設定ができるカードを配布したり、練習期間を設け、大会形式で実施したりすることで、参加意欲を高めている。
- 著名なアスリートの派遣では、講師の話に真剣に耳を傾ける生徒が多く見られ、得意でない生徒にも、運動やスポーツの素晴らしさを伝えることができたと感じている。

南足柄市の取組

担当課

南足柄市教育指導課

【 小学校の取組 】

楽しく遊んで体力アップ！

取組の概要

- 1 イベントを活用した取組
体力向上に向け、次のようなイベントを企画し、実施するなどしている。
(1) 時間走記録会
(2) 大縄集会
- 2 朝の時間や休み時間を活用した取組
朝の時間、休み時間に、進んで外遊びができるような環境整備(遊具やボール、竹馬など)を行い、3間(時間・空間・仲間)を意識した取組を行っている。
- 3 新体力テストへの取組
 - ・全学年全児童の実施
 - ・結果の考察、実態の把握
 - ・事前指導や全国平均、得点の掲示
 - ・正しい計測の仕方の掲示
 - ・市内教員研修による正しい計測方法の理解
 - ・全力を出せるよう指導を行う

取組推進・実施の流れ

6月	小学校体育指導研修会 体力テストの実施 イベント等の実施 (通年)
7月	夏季休業中の体力つくりの取組
8月	市教育研究会 第2回
9月	
10月	市陸上大会
11月	市教育研究会 第3回
12月	
1月	市教育研究会 第4回

取組の成果と課題

小学校については、昨年度に続き、体力テストキャラバン隊による市内教員研修等の実施により、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果において全国平均と同程度の結果となった。今後も、体育指導に係る研修を継続的に行い、さらなる運動能力の向上、運動習慣の定着を図っていきたい。

【 中学校の取組 】

誰もが参加し、生涯にわたり取り組む意欲が高まる体育の知識・技能の習得に向けて

取組の概要

- 1 保健体育科の授業での取組
 - ・全学年での新体力テストの実施
 - ・「体力づくり運動学習カード」の活用
- 2 体育祭の取組
 - ・体育祭実行委員会による種目決め
 - ・学級対抗による活発な種目練習
- 3 生徒会体育委員会の取組
 - ・生徒会主催による昼休みドッジボール大会等の実施
 - ・体育委員会による昼休みにおけるボールの貸し出し等
- 4 豊かなスポーツライフの実現を目指した取組
 - ・各運動部活動における活発な活動
 - ・見るスポーツや応援するスポーツ、支えるスポーツを意識した取組

取組推進・実施の流れ

6月	体力テストの実施 委員会活動の取組 (通年)
7月	夏季休業中の体力つくりの取組
8月	市教育研究会 第2回
9月	
10月	
11月	市教育研究会 第3回
12月	
1月	市教育研究会 第4回

取組の成果と課題

中学校については、全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、男女ともに「上体起こし」「反復横とび」に課題が残る結果となった。柔軟性や敏捷性を高めることを意識して、引き続き体育指導の充実を図るとともに、休み時間等における体力つくりの実施を推進したい。

中井町の取組

担当課

中井町教育委員会教育課

【 小学校の取組 】

運動を楽しみ、すすんで取り組む子どもをめざして

取組の概要

- 本町の児童及び小学校の実態について
 - ・運動経験が少ない・偏りがある
 - 休み時間での運動に取り組みかたの二極化
 - 運動に取り組む児童の固定化 種目の固定化
- 取組のねらいについて
 - ・運動の習慣化をめざして
 - さまざまな遊び
 - 継続的に運動に取り組む機会
 - 目標を設定したり、記録をつけたりする
- 取組の内容について
 - 1 朝の時間の取組
「マラソンタイム」 「なわとびタイム」
 - 2 体育委員会の取組
「レインボー昼遊び」 「雨天時体育館で新体力テスト」

取組推進・実施の流れ

6月	新体力テスト実施
7月	新体力テスト結果分析
8月	
9月	外遊びへの働きかけ
10月	児童会活動の充実
11月	
12月	
1月	持久走記録会への取組

取組の成果と課題

- 取組実施の成果
 - ・朝の活動の取組について
 - 毎週持久走の活動を継続できた（全学校）
 - ・外遊びへの取組について
 - 外に出て運動する児童が徐々に増えてきた
- 実施した結果
 - 欠席児童延べ数の減少
- 今後への課題
 - 日常的な習慣となるような手立てを継続すること

【 中学校の取組 】

運動の習慣化を目指して

取組の概要

- 本町の生徒及び中学校の実態について
 - ほとんどの種目で男女ともに全国平均を下回る結果となっている。特にハンドボール投げなどボールを投げる動作が苦手な生徒が多い。
- 取組のねらいについて
 - ・基礎体力の向上
 - ・生徒の主体的な取組
- 取組の内容について
 - 1 教科での取組
 - 2 学校全体の取組
 - (1) 昼休みの過ごし方
 - (2) 総合的な学習の時間の一環として

取組推進・実施の流れ

6月	新体力テストの結果自己分析
7月	夏休みの課題 「体力アップ」への取組
8月	夏休みの課題 「体力アップ」への取組
9月	新体力テスト（第2回）の実施
10月	体育館開放
11月	「球技大会」
12月	総合的な学習の時間 「中井を見て歩く」
1月	「長縄大会」

取組の成果と課題

- 取組実施の成果
 - ・新体力テストの取組について
 - 2回目の結果が一定の向上が見られた
 - ・体力アップへの取組について
 - 新体力テストの結果へと結びついた
- 実施した結果
 - 多面的な指導の必要性
- 今後への課題
 - 長期的な取組になるような手立てを継続すること

大井町の取組

担当課

大井町教育委員会教育総務課

【 小学校の取組 】

外で元気よく遊ぼう！

～体を動かす喜びを日々味わうための工夫～

取組の概要

○児童の実態について

「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」によると、実技調査では種目によってバラツキはあるが、平均またはやや上回る体力・運動能力がついてきている。「体力に自信がある」と回答した児童が多く、さらに「中学校で授業以外でも自主的に運動したい」等の設問にも肯定的であることから、運動への意識は高いことがうかがえる。一方で、家庭では「平日のテレビ/ゲームの時間」がいずれも長時間にわたっている児童が多く、男子では肥満傾向の割合がやや高い。運動だけでなく児童の健康や体力に関わる生活習慣についても指導・改善していく必要があると考える。

○取組のねらいについて

運動することに対して前向きに捉えている児童が多いので、皆で楽しく行えるレクリエーション的な運動遊びや、技能向上への挑戦心をかき立てるような設定や場を工夫することで、運動の習慣化をめざした。

取組推進・実施の流れ

6月	スポーツ委員会によるレクリエーション (ボール送りリレー、綱引き、おんぶじゃんけん、馬跳びリレー等)
7月	ドッジビー大会
8月	
9月	長縄大会
10月	
11月	持久走タイム
12月	
1月	ダンス発表会

実施校での一例。
その他「〇〇小ギネス」、一輪車や竹馬検定など、チャレンジ的なもので意欲を引き出す取組や、朝マラソンなど通年で体力づくりに取組んでいる学校も見られた。

取組の成果と課題

【成果】全ての学校で外遊びの推進を図る工夫が行われ、児童の主体的活動や異学年交流、体育的行事などと関連付けた活発な取組が見られた。

【課題】小規模の学校では、使用する用具などで多様な取組があったが、児童数が多い学校では場所や用具の確保が難しく、見守り教師の分担のための体制整備が必要である。また、よりよい生活習慣の指導にも力を入れたい。

【 中学校の取組 】

クラスで運動に親しみ

楽しく体力アップ

取組の概要

○生徒の実態について

「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」では、運動能力は全体的に低い傾向にあり、運動への興味関心も高い傾向にあるとは言い難い。「運動が好き」と答えた生徒の割合はやや低く、特に女子では1週間の総運動量は平均と比較してかなり少ない状況である。一方で、保健体育の授業に関しては肯定的に捉えている様子が見られる。そこで、技能レベルにかかわらず、楽しく自主的に取り組める授業、体育的活動の展開が望まれる。そして生涯に渡って運動に親しむ素地を育むために、さらなる工夫が必要であると思われる。

○取組のねらいについて

体育委員が主体となって、異学年交流や運動の推進等を目的としたスポーツ大会を実施した。また、長期休業には体力テストの結果などから個々の体力づくりのめあてを設定し、継続した取組を促している。

取組推進・実施の流れ

6月	第1回体力テスト（4月） 体育祭に向けての縄跳び（～5月） ドッジボール大会
7月	ダンス大会（授業の成果） 夏休み体力づくり強化（縄跳び）
8月	
9月	第2回体力テスト
10月	
11月	ドッジボール大会、体づくり運動
12月	冬休み体力づくり強化（縄跳び）
1月	球技大会（3月）

取組の成果と課題

【成果】1回目の体力テストの結果をもとに、自己の課題を把握し2回目を実施することで、効果的に結果の活用を図ることができた。またスポーツ大会も参加生徒が徐々に増えてきている。

【課題】全般的に運動能力が低い傾向にある。まずは意欲向上のため、運動する楽しさを味わわせる工夫を今後も継続し、運動に親しむ態度を育てていきたい。

松田町の取組

担当課

松田町教育委員会教育課

【 小学校の取組 】

学校全体で取り組む体育・健康教育

取組の概要

○松田町の児童の実態として

- 平成 27 年度の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」から、「上体起こし」「反復横跳び」などの筋力や敏捷性に課題があった。
- 学区に遊べる場所が少なく、休日に外で遊ぶ児童と遊ばない児童があり、運動する子としない子の二極化が進んでいる。

○取組のねらいとして

- 教師による場の設定の工夫、学習カードの充実や職員研修を行うことで、個々のレベルに応じた運動の仕方があることを理解し、児童が前向きに取り組むようになる。

○取組の内容について

- 夏季休業中に、「体づくり運動」と「ボール運動」の領域について、全職員を対象に校内研修を実施した。
- 時間走記録会に向けて「ランランウィーク」、長縄集会に向けて「なわとびウィーク」を開催した。

取組推進・実施の流れ

6月	新体力テストを行い、分析する。
7月	
8月	
9月	連合体育大会に向けての体力テストを行う。
10月	
11月	
12月	時間走記録会を行う。
1月	縄跳大会を行う。

取組の成果と課題

○成果と課題

- 時間走練習では、目標に向かって互いに励まし合って練習する姿が見られ、普段外遊びに積極的でない児童も、自然と運動場を走るようになり、体力づくりのきっかけとなった。
- 学び合いにより運動に関する関心・意欲が高まった。
- 行事などのイベントや大会が終わると運動をやめる児童が多い。大会の記録を目指すだけでなく、体を動かすことの心地よさを味わわせ、運動する楽しさや運動に親しむ姿勢につなげる指導を心掛けていく必要がある。

【 中学校の取組 】

「できた」「わかった」の実感を！

取組の概要

○松田町の生徒の実態として

- 平成 27 年度の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」から、「反復横跳び」「20mシャトルラン」など敏捷性や持久力に課題があった。特に「20mシャトルラン」における結果は、全国との差が大きかった。
- 朝食をとらずに登校する生徒があり、体力と同時に生活リズムを整えていく必要がある。

○取組のねらいとして

- 個に応じて、運動の成功体験を増やせる場面を設定することで、生徒が「できた」「わかった」という達成感を持てるようになり、前向きに取り組むようになる。

○取組の内容について

- コーディネーショントレーニングやゲーム等を取り入れ、練習機会が増える授業展開を工夫した。
- 保健分野で、生徒会の取組内容を関連させながら学習を進め、運動の大切さを理解できるように工夫した。

取組推進・実施の流れ

6月	新体力テストを行い、分析する。	
7月		体育館開放
8月	サマースクールを行う。	
9月	体力テストを行う。	
10月		
11月		
12月	球技大会を行う。	
1月	体力テストを行う。	

取組の成果と課題

○成果と課題

- 個々の生徒が運動を楽しみ、「できた」「わかった」という達成感を持てるような授業改善に取り組んできた結果、生徒から運動できるようになった達成感が生まれた。
- 小学校でのサポート授業では、教師の説明を聞いて実際に動きができた、記録が伸びたりすることで、「できた」「わかった」という実感を持たせることができた。これから中学校に入学する児童の運動技能の把握にもつながった。

山北町の取組

【 小学校の取組 】

走る！ 投げる！ 踊る！ を通した小・中の連携

取組の概要

- 実態について
 - ・児童数が少ないため全校で遊ぶことが多いが、発達の違いにより取り組みにくい遊びがあり、偏る傾向がある。
 - ・運動能力測定の結果から、投力が低い傾向がある。
- 取組のねらいについて
 - ・新たな遊びや表現を紹介し運動する楽しさを感じられるようにする。
 - ・運動経験を増やし、自分自身の運動特性に気づき、興味を広げていけるようにする。
- 取組の内容について
 - ・「全校合同のドッジボールは危ない」という声に対応するため、ライトドッジボールを購入し、安心して投げる遊びを楽しめるよう、用具やルールを工夫した。
 - ・小・中の運動会で合同の踊り「ソーラン山北」に取り組むことで進学後の自信につなげるとともに、新たに「エイサー」にも取り組んだことで新たな表現にも親しむことができた。

取組推進・実施の流れ

6月	体育の授業の工夫（投げる・走る 日常化） 体力テスト 委員会によるスポーツ集会
7月	
8月	
9月	踊る（運動会） 連合体育大会に向けて
10月	足柄上郡連合体育大会参加
11月	持久走大会に向けて（走る）
12月	
1月	

取組の成果と課題

- 成果
 - ・用具の工夫により、今までできなかった遊びに取り組んだり、自分たちで遊びを工夫したりする様子が見られるようになった。
 - ・できるようになった喜びが自信となり、主体的に運動に向かう姿が見られるようになった。
- 課題
 - ・児童数の少なさによるデメリットを、個々の運動能力を向上させられるためのメリットに変える必要がある。
 - ・中学校との情報交換を通し、多様な表現に触れる機会の確保や、集団活動に対する不安を解消していく。

担当課

山北町教育委員会学校教育課

【 中学校の取組 】

苦手を克服し運動を楽しむ ～走る・投げる・踊る～

取組の概要

- 実態について
 - ・体力・運動能力の高低は日頃の運動時間の多少に比例し、体を動かす生徒とそうでない生徒の二極化が生じている。
 - ・運動の得意な生徒であっても、種目の得意不得意や運動能力のアンバランスさを感じられる。
- 取組のねらいについて
 - ・楽しい体験の積み重ねを習慣化へとつなげるために、様々な運動・スポーツに親しむ機会を設ける。
 - ・自覚的な授業を通して苦手意識を克服させる。
- 取組の内容について
 - ・走力向上に向け、長距離走において設定タイムで走り通すことを課題とし、自覚的に速さに挑戦する楽しさを味わわせた。
 - ・小学校で取り組んできた「ソーラン山北」の体験を生かし、体育祭において全校男女で取り組んだ。地域とのつながりを生かし、表現する楽しさを感じることができた。

取組推進・実施の流れ

6月	授業での取り組み 踊る（体育祭） 昼休みのグラウンド・体育館開放
7月	体力テスト返却・体力づくり計画
8月	体力づくり（夏季休業中の課題）
9月	生徒会体育委員会の企画実施 踊る（文化祭に向けて）
10月	踊る（町の行事）
11月	
12月	走る（長距離走）
1月	投げる（ソフトボール）

取組の成果と課題

- 成果
 - ・授業での積み上げにより、経験不足を補い、ぎこちなさの解消や技能の習得へと結びつけることができた。
 - ・ダンスの取組を通して、仲間との豊かな関わりや自分らしく踊ることの楽しさを体験することができた。
- 課題
 - ・体力の維持・向上に向けて、授業外での運動習慣づくり、運動部活動の活性化に取り組んでいきたい。
 - ・運動習慣の二極化の解消に向け、多様な運動機会の用意や、教師や生徒相互によるアプローチの充実を図っていきたい。

開成町の取組

担当課

開成町教育総務課

【 小学校の取組 】

全校児童の体力向上をめざして ～体育委員会の活動を通して～

取組の概要

○児童及び小学校の実態

新体力テストの結果では男女とも、ほとんどの種目が県の平均を下回る結果であり、運動経験や運動量の減少が見られる。小学校では体育部を中心に子どもの運動量増加や興味関心を高める活動を実施しているが、児童の運動経験の二極化が見られる。

○取組のねらい

いろいろな運動の経験をすることで、運動することの楽しさを味わう。

○取組の内容

児童会活動の体育委員会を活発に機能させ、様々な運動経験の機会を設ける。更に、自分たちで主体的に活動させることで、運動に対する達成感や成就感を持たせる。

取組推進・実施の流れ

6月	児童会活動①短縄集会
7月	推進校の取組計画紹介
8月	かいせい阿波踊り研修会（職員向け）
9月	運動会での阿波踊り、さいさい節
10月	連合体育大会に向けた取組
11月	児童会活動②持久走への取組
12月	開成町の体力づくりの情報交換
1月	児童会活動③長縄集会

取組の成果と課題

推進校での取組を他校に紹介し、参考にすることができた。しかし児童会活動は学校ごとに同じではないため、全く同じ活動とはならない。推進校の「児童の主体性を育む取組」から自校に活かせるものを取り入れ、体力づくりの活動を活性化させることができた。

児童会の活動は、委員の意見を聞き、それを反映させた活動にすることで達成感や成就感を生み、どんどん新たな活動に繋がっていく。子どもたちの体力向上を子どもたち自身の手で仕掛けていく活動を今後も続けたい。

【 中学校の取組 】

主体的に取り組む運動

取組の概要

○生徒及び中学校の実態

運動部の活動は活発であり、生徒は積極的に取り組んでいるが、一方で部活動に所属していない生徒の運動への意識は低い。運動の好き・嫌い、得意・不得意の二極化も見られる。また、自己の健康管理に気を配って生活している生徒は少ない。

○取組のねらい

自己の体力の把握を行い、自ら運動する習慣づくりをめざした活動をする。

○取組の内容

体力テストの振り返りと課題設定を行い、自己の体力向上の取組を行う。体育委員会によるイベントを通して運動に親しむ機会を増やす。

取組推進・実施の流れ

6月	
7月	体力テスト振り返り
8月	体力テストを踏まえたトレーニング実施
9月	トレーニングの振り返り
10月	
11月	リベンジ大縄大会
12月	
1月	球技大会

取組の成果と課題

「いかに主体的に身体を動かし自己の体力向上を図ろうとするか」を考え、生徒の意識改革に目を向けた取組を行った。運動することの習慣化を図ったり、自己のライフスタイルチェックを行ったり、運動の成果を発表する機会を設けたりすることで、生徒は主体的に運動に関わることができた。

中学生では、御膳立てされた活動ではなく、自らが考え、自発的な活動をいかにさせるかによって運動の継続や体力の向上に差が出てくる。教員がうまく生徒と関わり、意欲の向上のための仕掛けを考えていきたい。

箱根町の取組

担当課

箱根町教育委員会
学校教育課

【 小学校の取組 】

*小中一貫での体力づくりの推進

取組の概要

- 箱根町の児童及び小学校の実態について
 - ・休み時間に外で遊ぶ児童は多いが、学区内に遊ぶ場所が少なく、帰宅後に外で遊ぶ児童が少ない。
 - ・学区が広く、児童の約半数がバス通学のため、歩く機会が少なくなっている。
 - ・地域にスポーツクラブが少なく、所属している児童もわずかである。
- 取組のねらいについて
 - ・日常の取組や活動を生かし、発展または関連させた活動を行う。
 - ・体育の授業を中心に、縄跳び運動を奨励する。
- 取組の内容について
 - 1 日常生活の中で体力づくり
 - 2 新体力テスト
 - 3 箱根町小中一貫教育体力づくり研究推進部での取組

取組推進・実施の流れ

6月	新体力テストの実施（5・6年生）＜5月＞		
7月	毎月1回の森小タイム（縦割り班遊び）＜通年＞	体育の授業に短縄跳びに取り組み＜通年＞	朝の時間・昼休みに運動遊びを奨励＜通年＞
8月			
9月	運動会の高学年種目に縄跳びを取り入れた。		
10月			
11月			
12月			
1月	運動委員会主催による体力テスト（3学期）		

取組の成果と課題

- 1 成果
 - 朝の時間や休み時間に外で遊ぶ児童が増えた。遊ぶ内容もバリエーションに富み、身体を動かす良い機会となっている。
 - 体育の時間に継続してなわとび運動を取り組むことにより、技能が向上した児童が増えた。
- 2 課題
 - 小中一貫教育による縄跳び運動の取組は、今年度から始めたので、今後継続することで児童の体力向上の効果について推移を見ていく必要がある。

【 中学校の取組 】

*楽しく運動 体力UP！

取組の概要

- 箱根町の生徒及び中学校の実態について
 - ・公共交通機関により登下校している生徒が多く、身体を動かす機会が少ない生徒が多い。
 - ・冬場になるとグラウンドの状態が悪くなり、運動する場の確保が難しい。
 - ・新体力テストの結果が、全国・県の平均を下回る種目がほとんどであった。
- 取組のねらいについて
 - ・運動する場、みんなで活動する機会を設け、楽しみながら運動する生徒を増やす。
 - ・小中一貫教育推進のもと、連携を図りながら、継続的、長期的に体力向上を図る。
- 取組の内容について
 - 1 保健体育科の授業での取組
 - 2 体育委員会を中心とした全校スポーツ大会・PETの取組
 - 3 小中連携「縄跳び運動」の取組

取組推進・実施の流れ

6月	体力測定(4月)運動会において縄跳びの種目(5月) 全校スポーツ大会：バレーボール
7月	
8月	
9月	体づくり運動（縄跳び運動）
10月	文化活動発表会（3年生・縄跳びを使った演技） 長距離走（8分間走）
11月	全校スポーツ大会：バスケットボール
12月	PET：1,3年生：ドッジボール 2年生：鬼ごっこ *PET（学年ごとのスポーツ大会）は2月にも実施予定
1月	全校スポーツ大会：バレーボール ミニ駅伝大会 *全校スポーツ大会は3月にも実施予定

取組の成果と課題

- 1 成果
 - 教科での取り組みにおいては、全体指導計画の見直しを行った結果、生徒の意欲を喚起することにつながった。
 - 体育委員会を中心とした昼休みの取り組みが定着し、運動に親しもうとする生徒が増えた。
- 2 課題
 - 教科や委員会活動において、生徒の更なる意欲の喚起のため、新しい取組を実施していく必要がある。
 - 小中一貫教育における体力づくりの取組として「縄跳び運動」を継続して実施していく。

真鶴町の取組

担当課

真鶴町教育委員会 教育課

【 小学校の取組 】

全校で体力テストを実施し、体力を伸ばす楽しさを味わわせよう。

取組の概要

- 真鶴町の児童及び小学校の実態について
 - ・休み時間は外で遊ぶ児童がいるが、体力テストの結果に結びつかない
 - ・体力テストより持久力、敏捷性、投力に課題が見られる
- 取組のねらいについて
 - ・全校で体力テストを実施し、数値化された自分の体力を客観的に認識させる
 - ・記録の蓄積、2度目の測定を行うことで自らの体力の伸びを実感させる
 - ・体育的行事の実施により運動の楽しさを味わわせる
- 取組の内容について
 - ・体力テストの全校実施
 - ・体力テストの記録の蓄積と分析による授業改善
 - ・体育委員会主催「マッジョチャレンジ」の実施
 - ・集会の充実化

取組推進・実施の流れ

6月	・体力テスト実施（※一部学年5月実施）
7月	・長縄大会①
8月	
9月	
10月	・運動会
11月	
12月	・長縄大会② ・学校保健委員会
1月	※マッジョチャレンジ（2月実施）

取組の成果と課題

- 成果
- 体力テストの全校実施が2年目となり、練習に励む姿が見られるなど児童に浸透してきた
 - 全校実施により体力の傾向を把握することができた
- 課題
- 児童が測定・記録を行う種目があり、データのばらつき等が出てしまった。事前の指導について検討する。
 - マッジョチャレンジの実施における振り返りを行うことで成果と課題をより明確にする必要がある。

【 中学校の取組 】

生徒が自らすすんで運動に親しむ態度を育てる～活動する喜びを仲間とともに～

取組の概要

- 真鶴町の生徒及び中学校の実態について
 - ・運動が好きな生徒と嫌いな生徒の二極化が見られる
- 取組のねらいについて
 - ・全ての生徒に体を動かすことの喜びを味わわせる
 - ・体育的行事をきっかけとして、仲間とともに体を動かすことの喜びを味わわせる
 - ・休み時間など日常的な学校生活の中で体を動かす遊びを楽しむとする
 - ・進んで地域の体育的行事に参加しようとする
- 取組の内容について
 - ・保健体育科授業におけるアンケート・体力測定の活用
 - ・生徒保健委員会を中心とした取組（学校保健委員会との連携）
 - ・学校行事につなげる取組（体力づくり集会・運動会）

取組推進・実施の流れ

6月	※運動会（5月実施） ※生活アンケート（4月実施）
7月	
8月	・体力向上プログラム実施
9月	
10月	・学校保健委員会 テーマ「咀嚼と健康の科学」
11月	
12月	
1月	※体力づくり集会（3月実施予定）

取組の成果と課題

- 成果
- 全ての生徒が意欲的に活動に取り組み、学年を超えた教え合い活動など異学年の交流が活発に行われた。
 - 2,3年生は男女ともに体力水準が向上し、保健体育科の授業への参加意欲も高い。
 - 地域行事に選手や運営として進んで参加する生徒が多い。
- 課題
- 今年度の取組についての定着化を図るとともに、小学校との連携を具体的に図っていく。

湯河原町教育委員会～食育を通じた健康づくり～

担当課

湯河原町教育委員会事務局
学校教育課

【 小学校の取組 】

健康な心身の育成には、「食」も大切！

～食育への関心を高めよう～

取組の概要

○市町村の児童及び小学校の実態について

- ・「食」は、生きる上での基本であり、健康な心身の育成には重要なものである。しかし、好き嫌いがある、朝食抜きや間食過多など不規則な食生活、食事に関わる人々や食材への感謝の気持ちの希薄など「食」の大切さを忘れがちな児童が数多く見られる。

○取組のねらいについて

- ・児童並びに家族が協力してお弁当を作ることを通して、食に対する児童及び家庭の意識を高め、望ましい食習慣の醸成を図る。

○取組の内容について

- ・お弁当の日を5つのコースを設定して実施
- ・チャレンジカードの取組
- ・家庭科との連携した取組
- ・町PTA連絡協議会との連携

取組推進・実施の流れ

6月	町食育担当者会議（第1回）
7月	
8月	足柄下郡教育課題研究協議会 食育推進研修
9月	朝食喫食率調査
10月	町PTA連絡協議会講演会
11月	
12月	お弁当の日（第1回）
1月	お弁当の日（第2回）

○食育担当による食育授業
○給食時の放送による啓発
○食育たより等の発行

取組の成果と課題

- 足りない栄養素を意識して、自ら献立を考えられるようになってきた。また、お弁当を作ることの大変さを実感し、お弁当以外にも、毎食作ってくれる家族や給食調理員さんたちへの感謝の気持ちが高まった。さらに、保護者からは、「家族でコミュニケーションを取りながら、楽しんで活動ができた。」等の感想が多数あった。
- 家庭によっては、保護者の理解や協力を得られない場合も考えられる。また、食育について、お弁当の日以外でも、日常的に取り上げ意識させていきたい。

【 中学校の取組 】

「イケ弁」づくりを通して

「食」について考えよう

取組の概要

○市町村の生徒及び中学校の実態について

- ・アンケートで、2割近くの生徒が朝食を食べないことがあると回答している。また、朝食の内容も主菜・副菜を摂取しない生徒がおり、バランスの取れた朝食を取れていない現状がある。本校の昼食は弁当になっており、コンビニで炭水化物のみを買ってくる生徒もいる。

○取組のねらいについて

- ・「弁当づくり」を通して食事の意義を理解し、よりよい食習慣を身につけること、調理をする人や食材への感謝など豊かな心の育成を目指す。

○取組の内容について

- ・お弁当の日を5つのコースを設定して実施
- ・イケ弁チェックの取組
- ・朝食チェックの取組
- ・食育たよりによる啓発

取組推進・実施の流れ

6月	町食育担当者会議（第1回） お弁当の日（第1回）
7月	
8月	足柄下郡教育課題研究協議会 食育推進研修
9月	朝食喫食率調査
10月	町PTA連絡協議会講演会
11月	お弁当の日（第2回）
12月	
1月	

○家庭科を中心とした食育授業
○食育たより等の発行

取組の成果と課題

- 生徒から「小学生の時にくらべて上手に料理ができた」などの感想も出てきている。また、調理実習で取組んだ料理を弁当に入れようとする生徒もおり、「食」と自己が密接になってきていると感じる。保護者にとっては、生徒の調理や弁当づくりの成長を見る機会にもなっている。
- 取組率や取組内容の向上へのしかけが必要である。また、小・中学校で連携して児童・生徒へ「弁当の日」の活動を推進していくことや、保護者に「弁当の日」の意義を理解してもらい、家庭との協力を深める必要がある。

